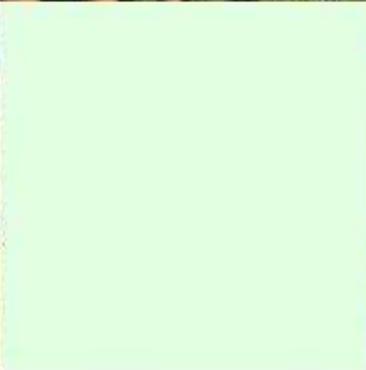


磐田市スポーツ推進計画 (中間見直し)



SPORTS in LIFE

令和3年4月
磐田市



磐田市イメージキャラクター
ンッペロ © 磐田市

はじめに

平成 21 年 4 月にスポーツ交流健康都市を宣言した磐田市は、スポーツを子どもからお年寄りまで誰もが共有できる文化と捉え、スポーツをすることで健康で魅力的な人づくりと地域間交流が盛んなまちづくりを推進してきました。

一方で国は、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を目指して、平成 23 年 6 月にスポーツ基本法を制定し、翌年 3 月にはこれに基づきスポーツ基本計画を策定しました。

本市もスポーツを取り巻く環境の変化に対応したスポーツの振興を図るため、平成 28 年度からの 10 年を見据えた「磐田市スポーツ推進計画」を策定し、スポーツ実施率などの具体的な目標を定め、その達成に向けた様々な施策を実施してきました。

本年は、この計画期間の中間年に当たることから市民意識調査などにより、その効果を検証したところスポーツへの関心の高まりは見受けられたものの目標としていたスポーツ実施率 55 パーセントの達成には及びませんでした。

この要因の 1 つとしては、30 歳代から 50 歳代までの世代が他と比べてスポーツに取り組む機会を持てなかったことが挙げられます。

今回の計画の見直しでは、この反省を踏まえてこれまで以上にスポーツとの関りが少ない世代へ向けた施策を推進し、加えて今日のコロナ禍においてスポーツの価値が再認識されていることから新しい生活様式を踏まえたスポーツ機会の確保といった新たな課題への対応などにも努めることとしました。

最後に本計画を着実に推進することでスポーツが生活の中に溶け込み、誰もが幸せを享受し、実感できる社会の実現を目指し今後も全力で取り組んでいきます。

目次

はじめに

第1章 計画の概要	1
1 計画の位置づけと期間	1
(1) 磐田市スポーツ推進計画について	1
(2) 中間見直しについて	1
2 スポーツの意義と定義	2
(1) スポーツの意義	2
(2) 本計画におけるスポーツの定義	2
第2章 磐田市におけるスポーツに関する現状と課題	5
1 市民のスポーツ実施率	5
2 スポーツを実施する目的	6
3 スポーツを実施する相手	7
4 スポーツ未実施者について	8
5 競技や種目のニーズについて	9
6 市民のスポーツ観戦について	10
7 市内体育施設の利用状況・満足度	13

第3章 具体的な施策展開 15

1 目指す姿	15
2 数値目標	15
3 体系図	16
4 政策目標（スポーツを推進するための取組）	18
子どものスポーツ機会の充実	18
ライフステージに応じ誰もがスポーツを親しむ機会の創設	20
スポーツ環境の基盤となる「人」と「場」の充実	23
トップレベルのスポーツを体感する機会の充実	26
新たな時代に対応した施策等の実施	28

第4章 総合的・計画的な推進にあたって 30

1 計画の実現に向けた連携・協働体制と進捗管理	30
2 アンケート調査等	31
3 磐田市スポーツ推進審議会について	31

資料編 33

計画の概要

1 計画の位置づけと期間

(1) 磐田市スポーツ推進計画について

磐田市スポーツ推進計画は、「磐田市総合計画」で掲げているまちの将来像の実現に向け、スポーツに関する施策について、具体的な取組を示した10年間の計画です。

平成23（2011）年8月に施行された「スポーツ基本法」の主旨を参酌し、国の「スポーツ基本計画」を参考にしながら、磐田市スポーツ審議会、市民の皆様等から意見をいただき、平成28（2016）年3月に策定しました。

(2) 中間見直しについて

計画の進捗状況、社会やスポーツ界の変化の速さに適切に対応するため、磐田市スポーツ推進審議会の意見等を踏まえ、策定から5年経過した令和2（2020）年度に中間見直しを行いました。

磐田市スポーツ推進計画



2 スポーツの意義と定義

(1) スポーツの意義

スポーツを実施することにより、体力の向上、生活習慣病の予防など身体
の健康の保持増進に効果を発揮し、爽快感、達成感等の精神的充足感
や、楽しさ、喜び、夢や感動を得られるばかりでなく、スポーツを通じた
交流・ふれあいによるコミュニケーション能力の育成や青少年の健全育
成、家族や仲間、地域社会における絆を強める等、多様な意義がありま
す。

(2) 本計画におけるスポーツの定義

本計画においては、スポーツ基本法に定める定義（「スポーツは、心身
の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心
その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他身
体活動」）と同様に考えています。言い換えれば、オリンピックやプロスポ
ーツにみられるルールに基づいて勝敗や記録を競うものだけでなく、余暇
時間や仕事時間等を問わず、健康を目的に行われる身体活動、更には遊び
や楽しみを目的とした身体活動（相応のエネルギー消費を伴うもの）ま
で、その全てを幅広く含むものとして捉えています。

運動不足解消のため、意識的に通勤手段を自家用車から自転車や徒歩に
かえたり、エレベーターやエスカレーターの使用を控えて階段を使っ
たり、公園で子どもと一緒に遊んだりするなどの日常生活における身体活動
もスポーツの定義に含みます。

よって本計画ではこれらすべてを総称してスポーツと表記し、これまで
スポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことも目的として
います。

広く捉えたスポーツ

余暇時間や仕事時間等を問わず、健康を目的に行われる身体活動
(例:ウォーキング、体操、ストレッチ)

仕事や家事の最中や合間に、健康や体力の保持増進、美容等を目的に実施する身体活動

(例:通勤手段を自家用車から自転車や徒歩にする、エレベーターやエスカレーターの使用を控えて階段を使う、公園で子どもと一緒に遊ぶ)

気晴らしや楽しみ、交流を目的として実施される、相応のエネルギー消費を伴う身体活動

(例:レクリエーション活動、散歩、かけっこ)

狭く捉えたスポーツ

- ルールに基づいて勝敗や記録を競うもの
例:オリンピックや、野球・サッカー等の競技スポーツ
- 健康や体力の保持増進を目的とし、計画的・継続的に実施する身体活動
例:ランニング、筋力トレーニング、健康体操



〔参考〕 日常生活における活動の数値化

日々の生活では、掃除や洗濯などの家事、子どもの世話などの育児、通勤・通学など知らず知らずに体を動かしていることが数多くあります。これらを数値化することで、「どれくらいエネルギーを消費しているのか」をすることができます。これが「METs (メッツ)」です。

METs は身体活動の強度を表す単位で、安静時（横になったり、座って楽にしている状態）を「1」とした時と比較して、何倍のエネルギーを消費するのかが分かります。例えば、掃除機をかけることは3.3METsで、軽い筋トレをすることに相当します。

運動活動	METs	生活活動
	1	安静に座っている状態(1) デスクワーク(1.5)
 ヨガ・ストレッチ(2.5)	2	料理・洗濯(2.0) 
 ウォーキング(3.5) 軽い筋トレ(3.5)	3	犬の散歩  掃除機かけ(3.3)  ガーデニング(3.8)
水中ウォーキング(4.5)	4	自転車(4.0)  ゆっくり階段を上がる(4.0) 通勤・通学(4.0)
かなり速いウォーキング(5.0)	5	動物と活発に遊ぶ(5.3)  子どもと活発に遊ぶ(5.8)
	6	
 ジョギング(7.0)	7	
 サイクリング(8.0)	8	階段を速く上る(8.8) 
 なわとび(12.3)	12	

国立健康・栄養研究所 改訂版『身体活動のメッツ(METs)表』より作図

磐田市におけるスポーツに関する現状と課題

1 市民のスポーツ実施率

▶ 週1回以上スポーツをしている市民は **51.0%**
 ~前回調査からスポーツを実施する人が **7.3** ポイント増加~

(1) 市民のスポーツ実施率

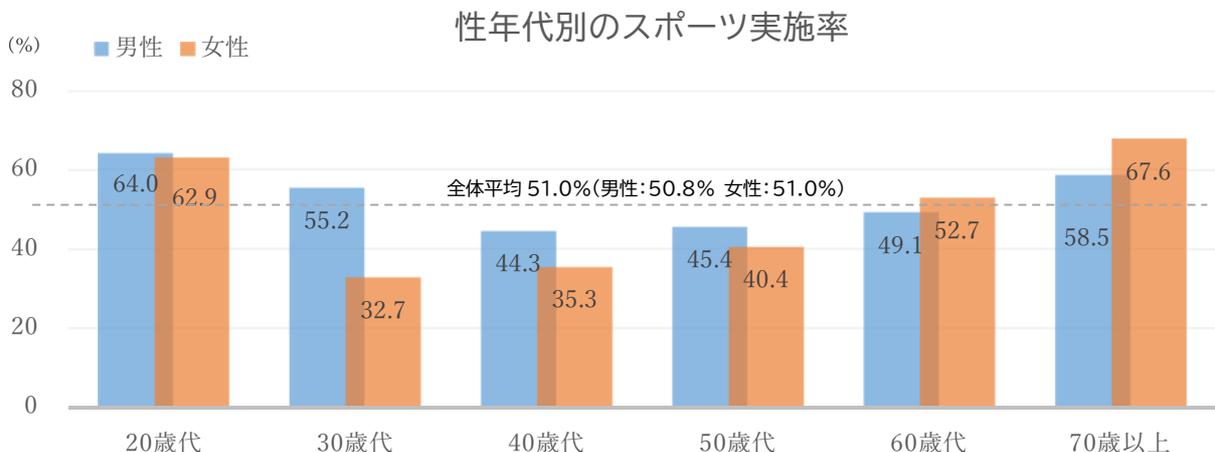
スポーツの実施状況を把握する指標にスポーツ実施率があります。スポーツ実施率は20分以上の運動を週1回以上する人の割合のことです。

平成25（2013）年度におけるスポーツ実施率は43.7%でしたが、令和2（2020）年度調査では、51.0%となり、7.3ポイント高くなっています。

(2) 年代別・性別のスポーツ実施率

市民のスポーツ実施率を年代別に見ると、70歳以上が最も高く、次いで20歳代となっています。反対に、40歳代が最も低い水準となっています。30歳代から50歳代のビジネスパーソン、子を持つ親世代が他の世代に比べて低い水準となっています。

また性別では、全体での実施率に大きな差はありませんが、30歳代から50歳代において女性の方が男性に比べて5ポイント以上低い水準となっています。



2 スポーツを実施する目的

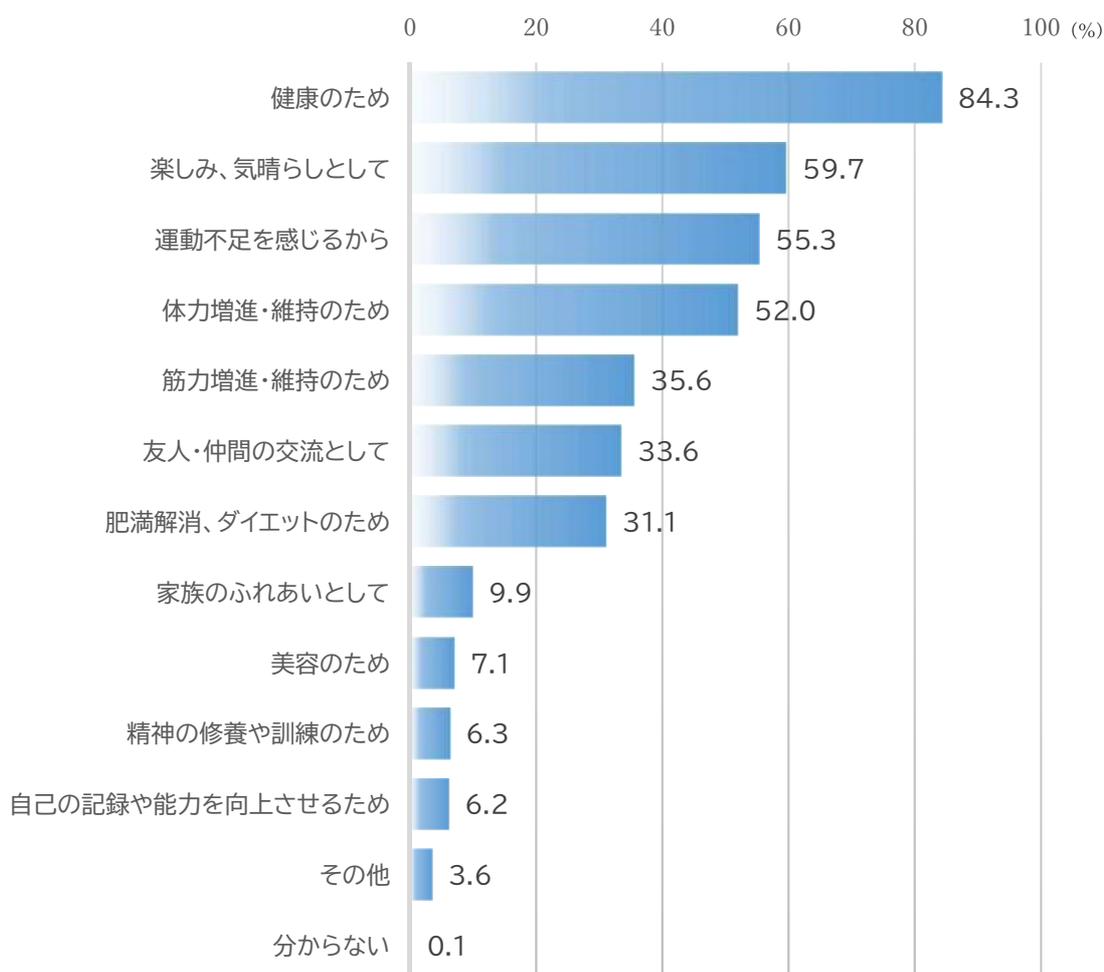
▶ 健康志向、楽しみ志向の高まり

スポーツを実施する目的

スポーツを実施している市民が、その理由として最も多く挙げたのは「健康のため」、次いで「楽しみ・気晴らしとして」でした。

体力や筋力の維持増進のためではなく、健康や楽しみ・気晴らしのためにスポーツを実施している市民が多くいることが分かりました。年代別に見ると、年齢が高い世代の方が健康を目的とした市民が多く、年齢が低い世代の方が楽しみ・気晴らしを目的とした市民が多いことが分かりました。

スポーツを実施する理由



3 スポーツを実施する相手

▶ 1人でスポーツを実施している市民が 50.5%

スポーツ誰と実施しているか

スポーツを1人で実施している市民が、50.5%と最も多くいました。

平成 25 (2013) 年の調査と比較し、1人で実施している市民の割合は 14.8 ポイント増加しています。自分の生活スタイルに合わせて、1人でスポーツを実施している市民が多いことが分かります。

人と人との結びつきの希薄化が指摘され、新型感染症の流行がそれを助長することが予想される中、友達や家族、所属団体の仲間と実施している市民もいることから、スポーツを地域の絆やコミュニティの形成の手段として活用することも求められます。



4 スポーツ未実施者について

▶ 仕事や家事を理由としたスポーツ離れ

スポーツを実施していない（できない）理由

スポーツや運動を全くしていない（できない）理由として、「家事や育児が忙しいから」を挙げた市民が最も多くいました。30歳代から50歳代までのスポーツ実施率が低いこととも大いに関連があると考えられます。

また、始めるきっかけや機会がないことを理由としている市民も少なからずいることも分かります。

スポーツを実施していない(できない)理由



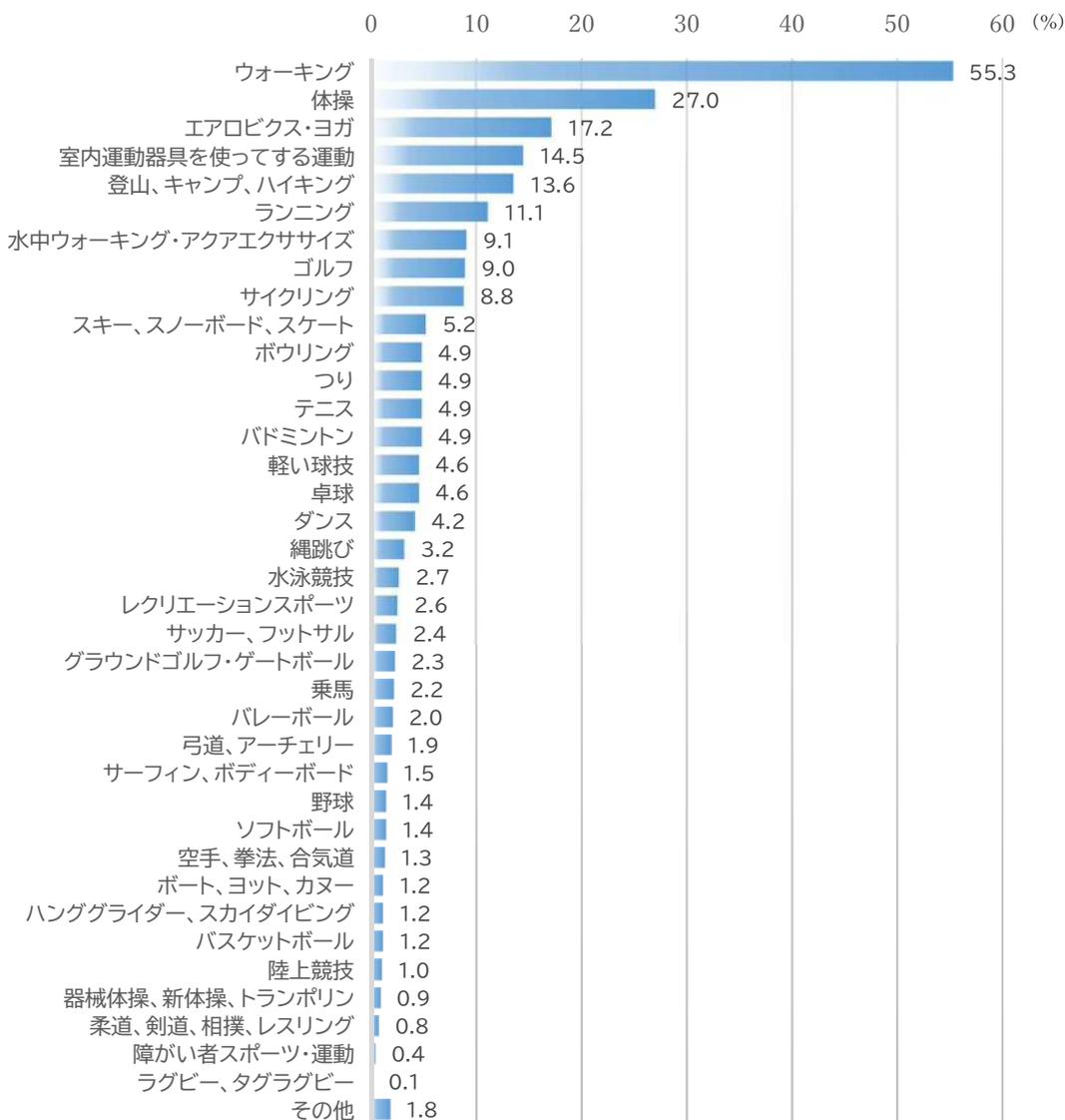
5 競技や種目のニーズについて

▶ 軽度なスポーツ > 競技的スポーツ

「継続してやりたい」「今後やってみたい」スポーツ

スポーツを既に実施している市民及びスポーツを実施していないが「これから始めてみたい」と考えている市民が最も取り組みたいと考えている種目はウォーキングであることが分かりました。全体で見ると、ウォーキング・体操・ヨガ・キャンプなど、気軽に始められ、続けられる比較的軽度なスポーツのニーズの高まりが見て取れます。

継続してやってみたい、今後やってみたいスポーツ

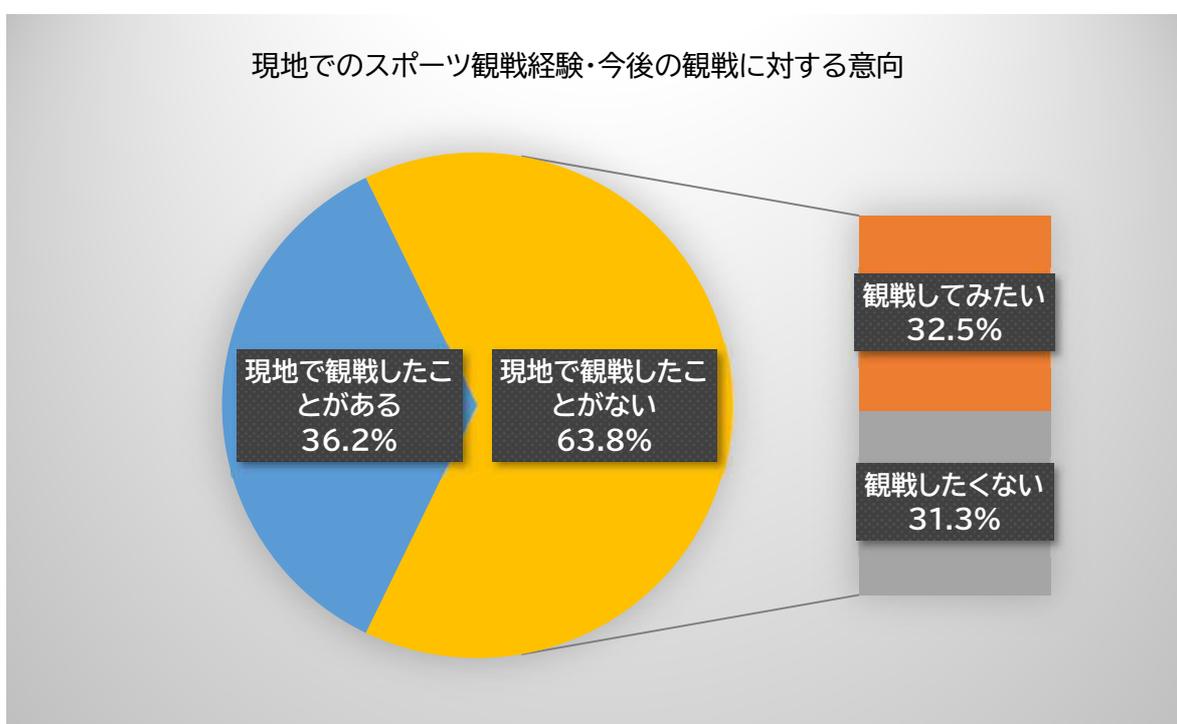


6 市民のスポーツ観戦について

▶ 現地でスポーツ観戦をしたことがある市民は **36.2%**

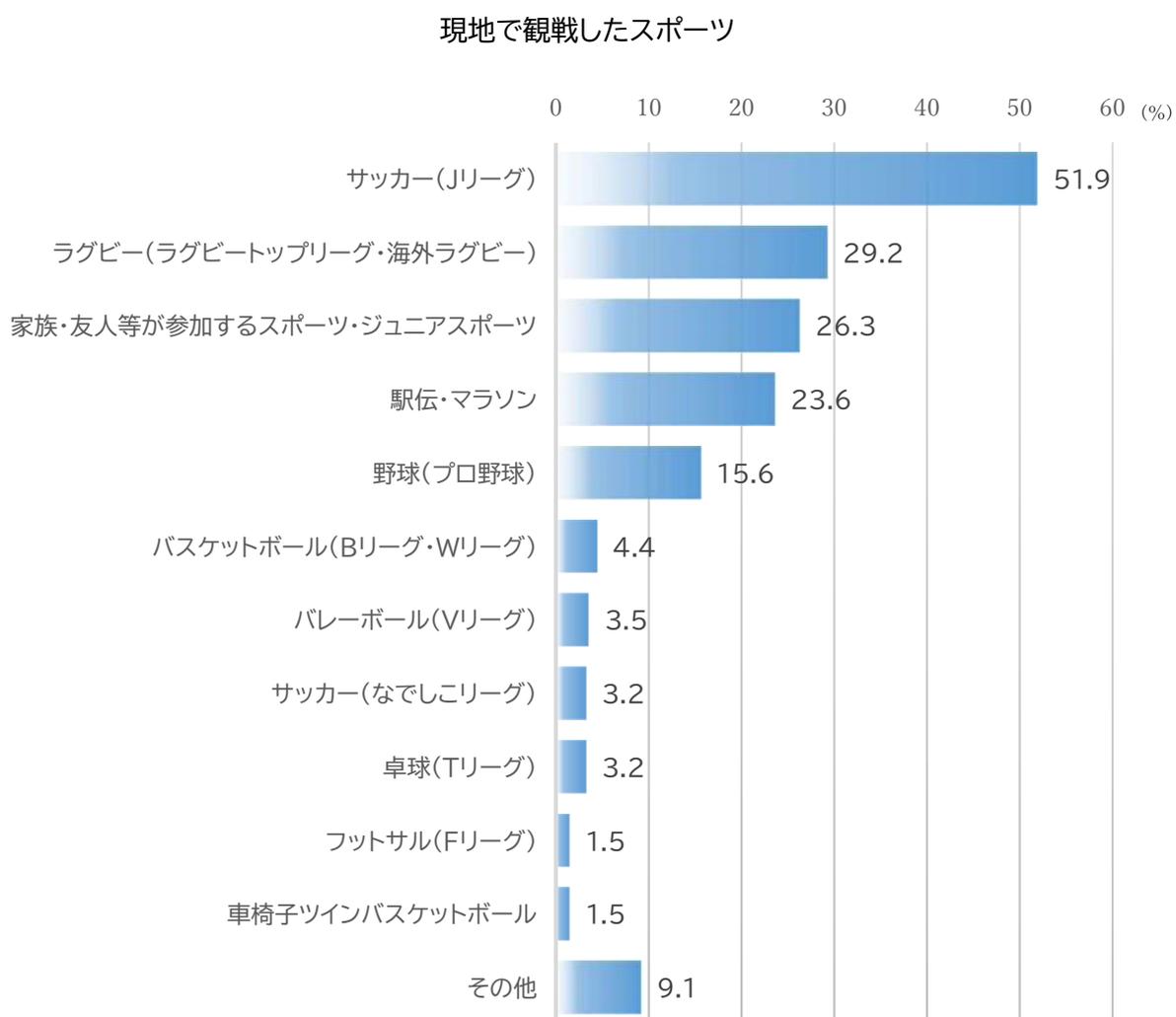
(1) 現地観戦の経験

過去3年間（平成29(2017)年～令和元(2019)年）に現地でスポーツ観戦をしたことがある市民は36.2%でした。観戦したことがない63.8%の市民のうち約半数は今後観戦してみたいと考えていることも分かりました。



(2) 観戦したスポーツ

過去3年間（平成29(2017)年～令和元(2019)年）に現地でスポーツ観戦をしたことがある市民がどのようなスポーツを観戦したか調査したところ、サッカー（Jリーグ）を観戦した市民が最も多いことが分かりました。次いで、ラグビー（ラグビートップリーグ・海外ラグビー）が多く、ジュビロ磐田やヤマハ発動機ジュビロ、ラグビーワールドカップの影響が非常に大きいことが分かります。

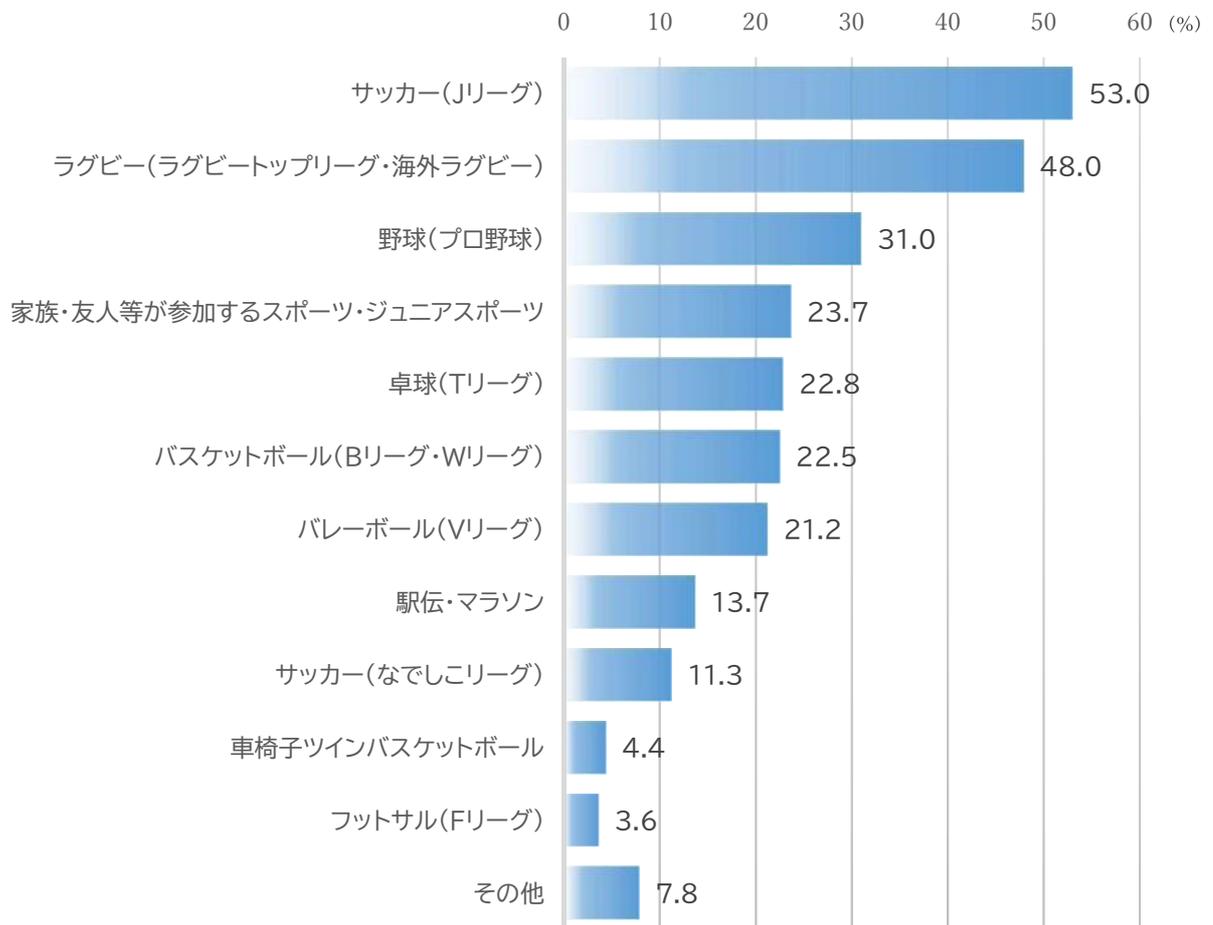


(3) 今後、現地観戦してみたいスポーツ

今後、現地観戦してみたいスポーツとしてはサッカー（Jリーグ）とラグビー（ラグビートップリーグ・海外ラグビー）の割合が多いことが見て取れ、市民のジュビロ磐田及びヤマハ発動機ジュビロへの関心が高いことが伺えます。

また、卓球（Tリーグ）についても 22.8%と高い数値となっています。磐田市ゆかりの選手が世界で活躍していることから市民の観戦に対する関心が高いことが伺えます。

今後、現地観戦してみたいスポーツ



7 市内体育施設の利用状況・満足度

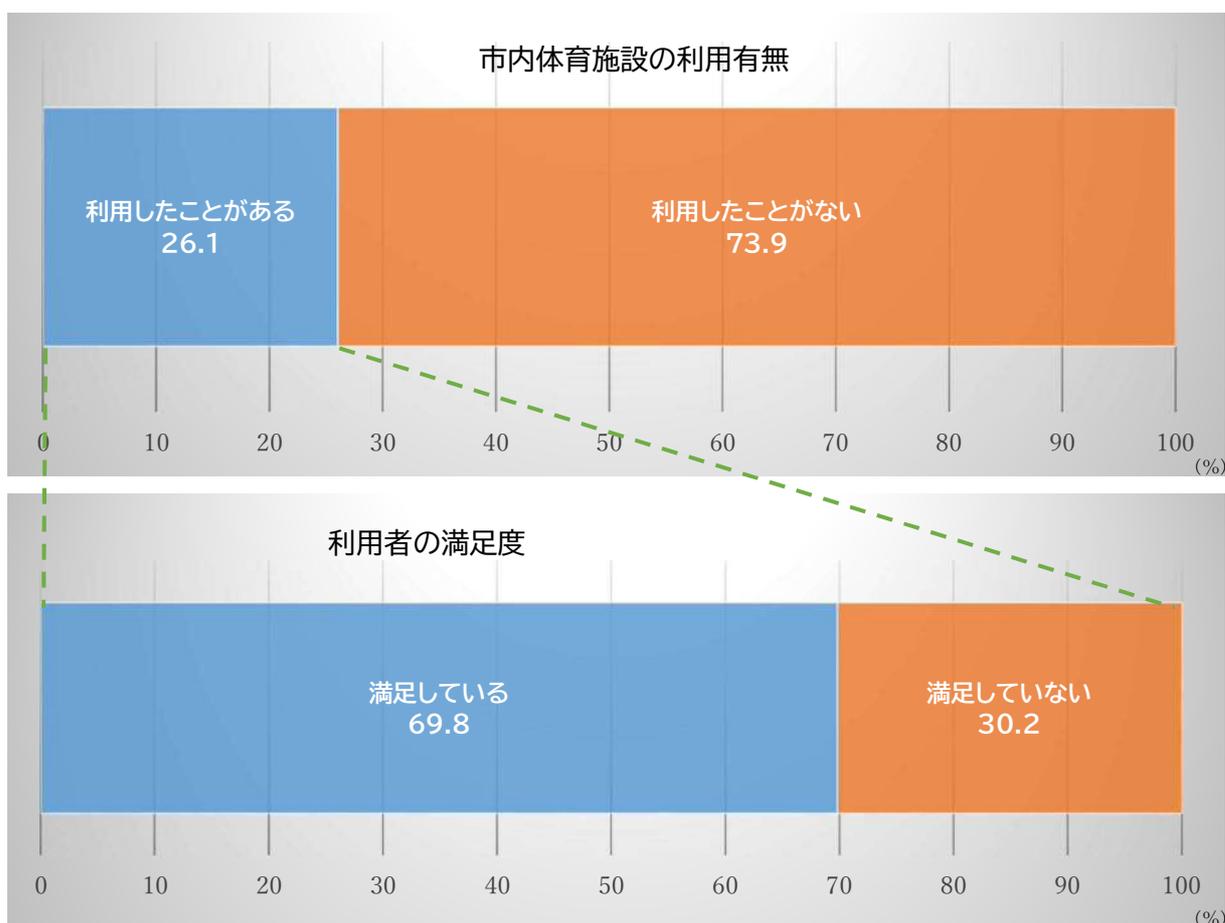
▶ 市民の市内体育施設の利用割合は **26.1%**

～利用者の満足度は **69.8%** (前回調査からで **4.8** ポイント向上)～

(1) 市内体育施設の利用割合及び満足度

過去3年間（平成29(2017)年～令和元(2019)年）に、26.1%の市民が市内体育施設を利用したことがありました。

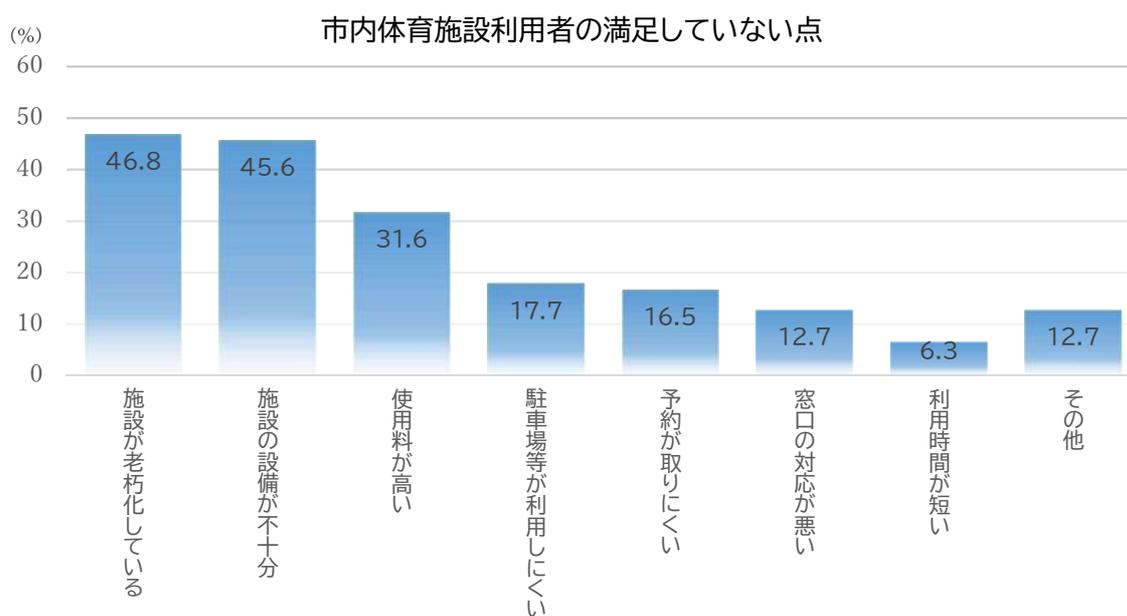
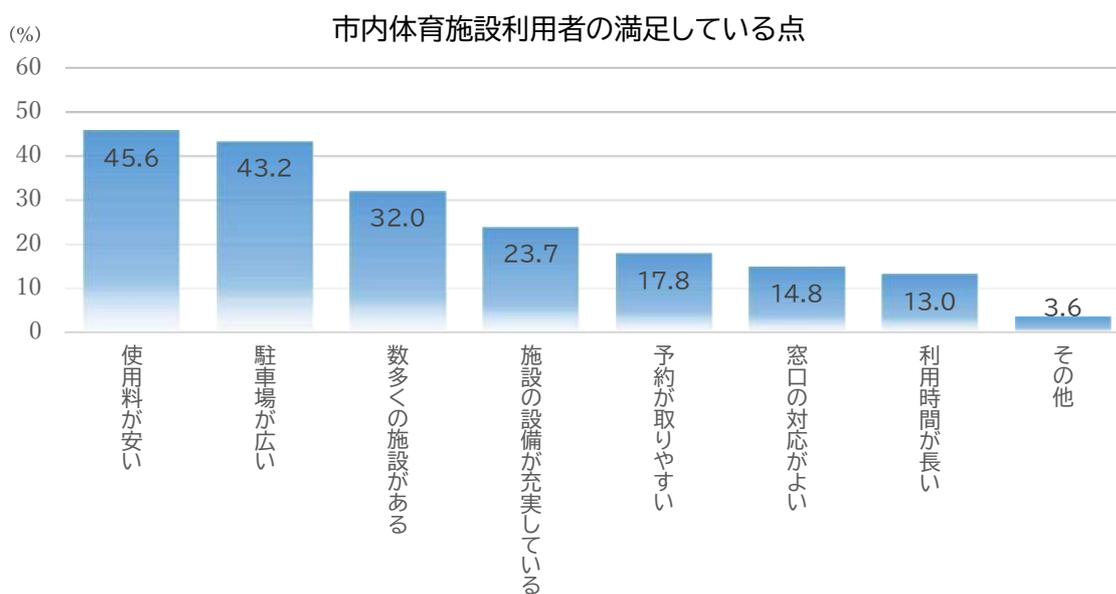
市内体育施設の利用者の満足度では、69.8%の利用者が満足していることが分かり、平成25（2013）年の調査と比較し、4.8ポイント向上しています。



(2) 市内体育施設利用者の満足している点・満足していない点

利用者の満足している点では、「使用料が安い」が最も多く、次いで「駐車場が広い」「数多くの施設がある」となっています。

満足していない点としては、「施設が老朽化している」が最も多く、次いで「施設の設備が不十分」となっています。平成25（2013）年の調査と比較すると、「予約が取りにくい」「駐車場が利用しにくい」の割合が大幅に減少しています。



第 3 章

具体的な施策展開

1 目指す姿

年齢や性別、障がい等を問わず、
市民 1 人ひとりが、関心、適性等に応じて
スポーツに参画することができる環境の整備

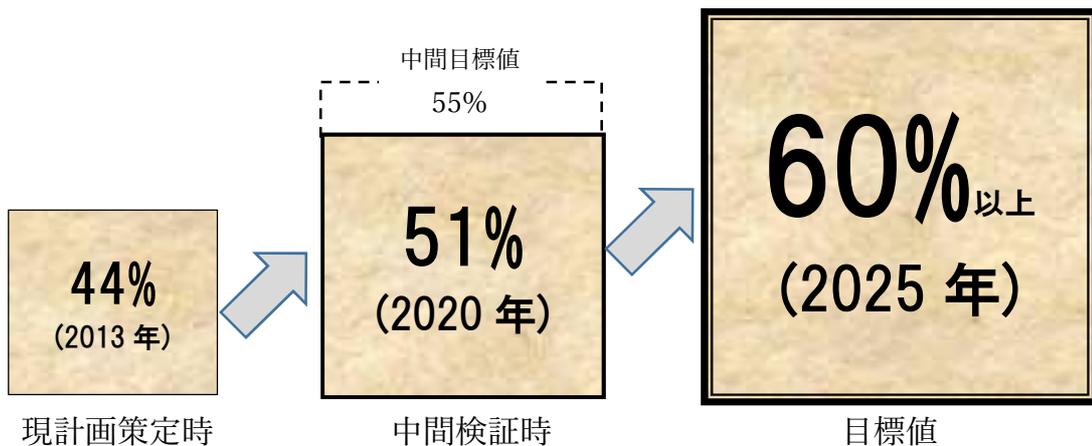
2 数値目標

令和 7 (2025) 年までに

スポーツ実施率を60%以上

を目指します。

※スポーツ実施率とは、スポーツを定期的(20分以上のスポーツを1週間に1回以上)
に行っている成人の割合のこと



3 体系図

【目指す姿】

年齢や性別、障がい等を問わず、
市民1人ひとりが、
関心、適性等に応じて
スポーツに参加することができる
環境の整備

【目標】

スポーツ実施率

年	スポーツ実施率
2013年	44%
2020年	51%
2025年	60%以上

※スポーツ実施率とは、スポーツを定期的（20分以上のスポーツを1週間に1回以上）に行っている成人の割合のこと。

政策 I	<p>子どものスポーツ 機会の充実</p> <p>■スポーツが好きと感じる割合 [現状] [目標]</p> <p>中2男子 88.5% → <u>90%</u> 中2女子 80.4% → <u>85%</u></p>
政策 II	<p>ライフステージに応じ誰もが スポーツを親しむ機会の創設</p> <p>■40歳代のスポーツ実施率 [現状] [目標]</p> <p>38.9% → <u>50%</u></p>
政策 III	<p>スポーツ環境の基盤となる 「人」と「場」の充実</p> <p>■成人の年1回以上のスポーツ支援実施率 [目標] <u>15%以上</u></p> <p>■社会体育施設の年間利用者数 [現状] [目標]</p> <p>延べ113万人 → <u>延べ116万人以上</u></p>
政策 IV	<p>トップレベルのスポーツを 体感する機会の充実</p> <p>■過去3年間に試合会場においてトップ レベルのスポーツを観戦したことがある 市民の割合 [現状] [目標]</p> <p>27.8% → <u>45%以上</u></p>
政策 V	<p>新たな時代に対応した 施策等の実施</p> <p>■感染症等によるイベントの中止回数 [目標] <u>0回</u></p>

基本施策

主な取組事項

I-1	未就学児の運動機会の充実・運動習慣や体力の重要性についての啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●親子ふれあい体育教室の充実 ●ジュビロ(サッカー・ラグビー)と連携した教室の開催 ●運動習慣や体力の重要性に関して、乳幼児健康診査等を活用した情報提供 ●親子でできる運動プログラムの提供 ●市内にある公園や遊具などの紹介
I-2	小中学生の運動機会の充実・体力向上につながる事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校3,4年生を対象としたわくわくスポーツ教室の充実 ●磐田スポーツ部活の実施 ●放課後子ども教室の推進 ●全国各種スポーツ大会に出場する児童・生徒への支援 ●ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦事業の実施 ●ジュビロ(サッカー、ラグビー)の小中学生との交流事業の実施
II-1	成人におけるスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●スポレク健康フェスティバルの開催 ●磐田市5地区選抜グラウンド・ゴルフ大会の開催 ●ジュビロ磐田メモリアルマラソン大会の開催支援 ●「いつでも」「どこでも」「だれにでも」取り組める運動プログラムの開発と企業等を通じた普及 ●指定管理者等の特長を生かしたスポーツ教室等の実施 ●観光施策などと融合したウォーキングイベント等の検討 ●市民だれもが取り組むことができる健康づくり事業の促進(いきいき百歳体操、ラジオ体操、たのしっぺい健康チャレンジほか) ●地域密着型の講座・教室の実施
II-2	障がいのある人のスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●発達支援のびのびスポーツ教室の実施 ●障がい者スポーツや障がい者と健全者がともに楽しめるスポーツの大会や教室の実施 ●車いすツインバスケットボール大会の開催支援 ●障がい者スポーツ選手等による講演や体験教室の実施
III-1	指導者やボランティアの確保	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ推進委員等を対象とした研修会の充実 ●大学生のスポーツ推進委員への登用 ●指定管理者やスポーツ協会等と連携した指導者の確保 ●中学生や高校生のスポーツイベントの参加促進
III-2	大学やスポーツ団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●大学やスポーツ団体・企業等と連携した運動プログラムの開発や施策の実施 ●大学やスポーツ団体・企業等の保有するスポーツ施設の活用の検討 ●総合型地域スポーツクラブの充実を図る体制の整備
III-3	施設を安全かつ円滑に使用するための取組	<ul style="list-style-type: none"> ●修繕計画の策定と適正な実施 ●指定管理者制度を導入した施設の管理運営 ●公共施設予約システムの充実 ●スポーツ施設以外でスポーツに親しむことができる場(ウォーキングコースや公園など)の紹介
IV-1	トップレベルのスポーツを「みる」機会などの充実	<ul style="list-style-type: none"> ●ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦事業の実施 ●ジュビロ(サッカー、ラグビー)ホームゲーム観戦招待事業の実施 ●ジュビロ(サッカー、ラグビー)の小中学校、地域団体等との交流事業の実施 ●トップアスリートを招いた教室の開催 ●オリンピックなど国際大会出場者の壮行会の開催
IV-2	スポーツに係る広報活動・情報提供の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ●本市ゆかりの選手、チームの活躍を発信する機会の増加 ●HPやSNSなどの情報通信技術を活用したスポーツ情報発信の検討
V-1	コロナ禍におけるスポーツ活動の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症影響下における、スポーツイベントや教室等の実施方法の検討 ●施設利用のガイドラインの作成 ●個人や少人数でもできる運動プログラムの開発や映像配信等の検討
V-2	スポーツ以外の事業を活用したスポーツ施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●観光施策などと融合したスポーツイベントの実施 ●スポーツ合宿等における既存体育施設の有効活用

4 政策目標（スポーツを推進するための取組）

I 子どものスポーツ機会の充実

<指 標>

■スポーツが好きと感じる割合

	[現状]		[目標]
中2男子	88.5%	→	<u>90%</u>
中2女子	80.4%	→	<u>85%</u>

スポーツでつなげる いわたの未来

子どもの頃に身体を動かすことは、生涯にわたってスポーツに親しむことにつながります。また、子どもの頃は身体の動かし方や動作、技術などを短時間で習得できる貴重な時期でもあります。

そして、子どもたちにとってスポーツは、生涯にわたって健康でたくましく生きるための体力の基礎や、公正さと規律を尊ぶ態度、克己心を培うなど、人間形成に重要な役割を果たします。

子どもたちが大人になる前に十分に身体を動かして、スポーツの楽しさや意義・価値を実感し、継続してスポーツを楽しみ、将来に向けて健康な生活や体力の向上が図られるような取組を行います。



＜基本施策・主な取組事業＞

I-1 未就学児の運動機会の充実・運動習慣や体力の重要性についての啓発

未就学児が身体を動かすことが楽しいと思える各種教室の実施やプログラムの提供に努めます。

また、走る、跳ぶ、ぶら下がるなど、身体を動かすことの重要性を保護者が理解できるよう啓発に努めます。

- 親子ふれあい体育教室の充実
- ジュビロ（サッカー・ラグビー）と連携した教室の開催
- 運動習慣や体力の重要性に関して、乳幼児健康診査等を活用した情報提供
- 親子でできる運動プログラムの提供
- 市内にある公園や遊具などの紹介

I-2 小中学生の運動機会の充実・体力向上につながる事業の推進

小中学生の子どもたちが、スポーツに取り組みやすい体制を作るため、魅力ある活動を提供するよう努めます。

また、中学校部活動の在り方について検討し、中学生のスポーツの機会を整えます。

- 小学校3，4年生を対象としたわくわくスポーツ教室の充実
- 磐田スポーツ部活の実施
- 放課後子ども教室の推進
- 全国各種スポーツ大会に出場する児童・生徒への支援
- ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦事業の実施
- ジュビロ（サッカー、ラグビー）の小中学生との交流事業の実施

II

ライフステージに応じ 誰もがスポーツを親しむ機会の創設

<指 標>

■ 40 歳代のスポーツ実施率

[現状] [目標]
38.9% → 50%

スポーツとともに 豊かな人生を

市民の誰もがそれぞれの体力や適性に応じて、スポーツに取り組むことは、生涯にわたって心身ともに健康で文化的な生活を営むために重要です。そのため、市民が日常的にスポーツに親しむ活動に参加できるよう、環境の整備を図ります。

特に、これまでスポーツに関わる機会の少なかった主に 30 歳代から 50 歳代までの市民が気軽にスポーツに親しめるようきっかけづくりを進めます。



<基本施策・主な取組事業>

Ⅱ－１ 成人におけるスポーツの推進

成人、とりわけ30歳代から50歳代までのスポーツへの参加を促進するため、スポーツに取り組めなかった原因を踏まえ、スポーツに親しむ機会の充実を図ります。

仕事や家事、育児が忙しいことにより、スポーツを実施できていない市民が多くいることから、時と場を選ばず手軽にできる運動プログラムを開発します。

観光施策などと融合したスポーツ施策を実施することで新たにスポーツを行う市民を増やします。

- スポレク健康フェスティバルの開催
- 磐田市5地区選抜グラウンド・ゴルフ大会の開催
- ジュビロ磐田メモリアルマラソン大会の開催支援
- 「いつでも」「どこでも」「だれにでも」取り組める運動プログラムの開発と企業等を通じた普及
- 指定管理者などの特長を生かしたスポーツ教室等の実施
- 観光施策などと融合したウォーキングイベント等の検討
- 市民だれもが取り組むことができる健康づくり事業の促進（いきいき百歳体操、ラジオ体操、たのしっぺい健幸チャレンジほか）
- 地域密着型の講座・教室の実施

Ⅱ－２ 障がいのある人のスポーツの推進

障がいのある人のスポーツ推進を図るため、障がいのある方々が取り組める活動の提供に努めるとともに、障がい者と健常者がともに楽しめるスポーツを推進します。また、市民に障がい者スポーツの素晴らしさを理解をしてもらう機会をつくります。

- 発達に不安のある子どもやその保護者を対象とした、発達支援親子のびのびスポーツ教室の実施
- 障がい者スポーツや障がい者と健常者がともに楽しめるスポーツの大会や教室の実施
- 車いすツインバスケットボール大会の開催支援
- 障がい者スポーツ選手等による講演や体験教室の実施

III

スポーツ環境の基盤となる 「人」と「場」の充実

<指 標>

■ 成人の年1回以上のスポーツ支援実施率

[目標] **15%以上**

※スポーツ支援実施率とは…スポーツイベントや各種競技の大会スポーツ活動のほか、スポーツ少年団や小中高大学の運動部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などに指導者や運営委員としてお手伝いするなど、あらゆるスポーツ活動の支援を含む。

■ 社会体育施設の年間利用者数

[現状]

[目標]

延べ約 113 万人 → **延べ 116 万人以上**

スポーツをとりまく 環境の充実

市民がより継続してスポーツに取り組むために地域においてスポーツ活動を支える指導者や専門スタッフ、審判員等、スポーツに関わる人材の育成を図ります。

また、地域の既存施設の有効活用等により、安全にスポーツ活動を行うことができる空間をできる限り多く提供することに努めます。



＜基本施策・主な取組事業＞

Ⅲ-1 指導者やボランティアの確保

地域におけるスポーツ活動の充実を図るため、指導者やボランティア等の確保に努めます。

- スポーツ推進委員等を対象とした研修会の充実
- 大学生のスポーツ推進委員への登用
- 指定管理者やスポーツ協会等と連携した指導者の確保
- 中学生や高校生のスポーツイベントへの参加促進

Ⅲ-2 大学やスポーツ団体等との連携

地域におけるスポーツ活動の充実を図るため、大学や各種スポーツ団体と連携を深めるとともに、各種団体の活動を支援します。

- 大学やスポーツ団体・企業等と連携した運動プログラムの開発や施策の実施
- 大学やスポーツ団体・企業等の保有するスポーツ施設の活用の検討
- 総合型地域スポーツクラブの充実を図る体制の整備

Ⅲ-3 施設を安全かつ円滑に使用するための取組

誰もが生涯にわたってスポーツを安全に楽しめる環境をつくるため、スポーツ施設や学校体育施設等の計画的な修繕や適切な管理運営を行います。

スポーツ施設以外の場所についても、スポーツに親しむことができる場として利用を促していきます。

- 修繕計画の策定と適正な実施
- 指定管理者制度を導入した施設の管理運営
- 公共施設予約システムの充実
- スポーツ施設以外でスポーツに親しむことができる場（ウォーキングコースや公園など）の紹介 [一部再掲]

IV

トップレベルのスポーツを 体感する機会の充実

<指 標>

- 3年間に試合会場においてトップレベルのスポーツを観戦したことがある市民の割合

[現状]

[目標]

27.8%

→

45%以上

スポーツ観戦で さらなる関心を

本市では、卓球や陸上、水泳、柔道など我が国のスポーツ界をリードする人材を数多く輩出しています。また、サッカー、ラグビーなど質の高いスポーツを間近で観戦できる環境にあります。多くの市民が地域資源であるスポーツクラブのチームや選手を身近に感じることができる機会を充実させることで、さらにスポーツへの関心を高めます。



<基本施策・主な取組事業>

IV-1 トップレベルのスポーツを「みる」機会などの充実

トップレベルのスポーツを「観戦する」機会、そして選手やチームと「交流する」機会の充実に努めます。

- ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦事業の実施 [再掲]
- ジュビロ（サッカー、ラグビー）ホームゲーム観戦招待事業の実施
- ジュビロ（サッカー、ラグビー）の小中学校、地域団体等との交流事業の実施 [一部再掲]
- トップアスリートを招いた教室の開催
- オリンピックなど国際大会出場者の壮行会の開催

IV-2 スポーツに係る広報活動・情報提供の見直し

ホームページやソーシャルネットワークサービスを活用するなどして、スポーツ情報や本市ゆかりの選手、チームの活躍等を積極的に情報発信していきます。さらに、トップレベルのスポーツと連携し、効果的な市政情報の発信に努めることでスポーツへの関心を高めます。

- 本市ゆかりの選手、チームの活躍を発信する機会の増加
- ホームページやソーシャルネットワークサービスなど情報通信技術を活用したスポーツ情報発信の検討

V

新たな時代に対応した施策等の実施

<指 標>

[目標]

■ 感染症等によるイベントの中止回数 **0回**

※日時や実施方法等を検討し、同様または同程度の事業を別の形で実施した場合は、イベントを開催したこととする。

どんなときでも あなたの身近にスポーツを

新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活様式に大きな変化をもたらしました。私たちを取り巻く環境が大きく変化する中でも市民がスポーツを身近に感じ、スポーツに親しめる機会の提供に努めます。

また、スポーツ以外の事業においてもスポーツにつながる施策を盛り込むことであらゆる市民がスポーツに親しめる機会をできるだけ多く提供します。

V-1 コロナ禍におけるスポーツ活動の確保

コロナ禍では、スポーツ実施に際し様々な制約が求められています。一方でスポーツの価値が再認識されています。安心安全にスポーツを楽しむ環境を整備しつつ、コロナ禍でも市民がスポーツに親しめるための取組を推進していきます。

- 新型コロナウイルス感染症影響下におけるスポーツイベントや教室等の実施方法の検討
- 施設利用のガイドラインの作成
- 個人や少人数でもできる運動プログラムの開発や映像配信等の検討

V-2 スポーツ以外の事業を活用したスポーツ施策の推進

観光などスポーツ以外の既存イベントにスポーツの要素を取り入れ、市民がスポーツに親しむ機会を増やします。

- 観光施策などと融合したスポーツイベントの実施
- スポーツ合宿等における既存体育施設の有効活用

第 4 章

総合的・計画的な推進にあたって

1 計画の実現に向けた連携・協働体制と進捗管理

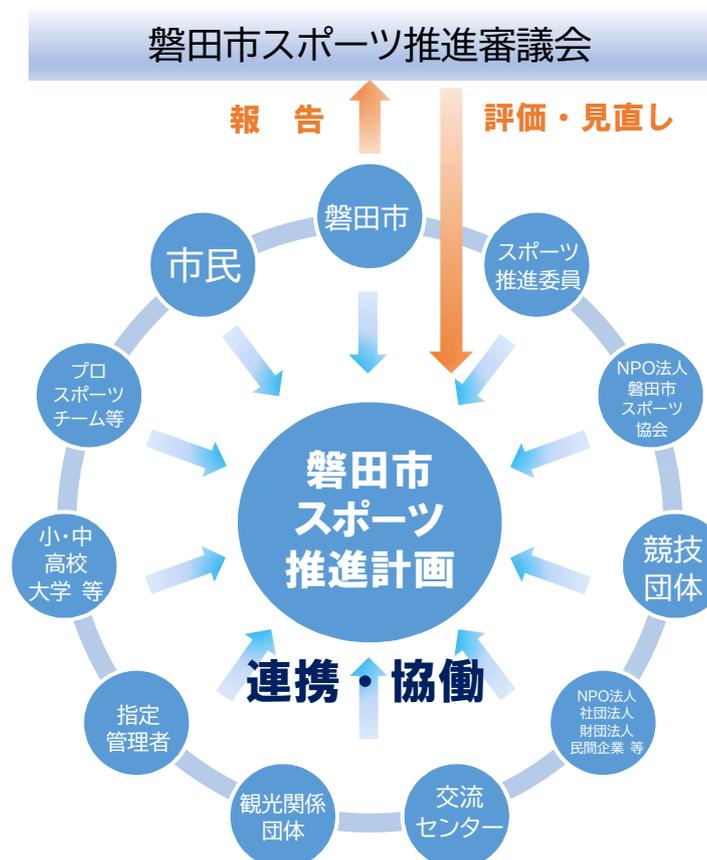
本計画に位置付けた施策・取組を着実に推進していくためには、行政やスポーツ関係団体、プロスポーツチーム、大学、企業等の関係団体がスポーツ推進の重要性を認識し、互いに連携・協働しながら、自主的・主体的な取組を図っていくことが期待されます。

市民が主体的にスポーツを楽しみ、地域で住民同士の交流を図ることができるよう、役割分担を明確にしながら連携・協働して計画を推進していきます。

なお、スポーツ行政を推進するにあたり、健康増進、教育、福祉、介護、地域づくり、観光、都市整備など様々な所管と引き続き連携を図っていきます。

施策の進捗管理にあたっては、計画(PLAN)、実行(DO)、評価(CHECK)、改善(ACTION)のサイクルにより適切に行い、毎年「磐田市スポーツ推進審議会」において、取組の進捗状況を確認します。

また、本計画の最終年度（次期計画の見直し時）には、第3章で示した数値目標等を元に、評価と検証を行います。



2 アンケート調査等

市内在住の20歳以上の市民3,000名（無作為抽出による郵送配布・郵送回収）を対象に、スポーツに関する市民アンケートを実施しました。

アンケート集計及び考察は、スポーツへの市民の実態・意識、施設の利用状況等の実態を把握する資料として活用を図ることに加え、市民ニーズを踏まえたスポーツ活動に求められる今後の取組や方向性等の分析に活用しています。

本計画最終年度（次期計画の見直し時）においても、本計画全体の数値目標として掲げた市民のスポーツ実施率や各政策目標の達成指標の現状を的確に把握していくため、市民のスポーツ活動に関する意識や実態について調査を実施する予定です。

3 磐田市スポーツ推進審議会について

スポーツ関係団体の代表者、学識経験を有するもの、市民の代表者、関係行政機関の職員で構成する「磐田市スポーツ推進審議会」において市民アンケートの内容確認や結果の考察、磐田市スポーツ推進計画と本市のスポーツ施策における具体的な取組や事業等との整合性等の検証など、各段階で審議をいただいています。

(1) 設置根拠

磐田市スポーツ推進審議会は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第31条の規定に基づき本市のスポーツの推進を図るために設置されています。

(2) 委員構成等

スポーツ推進審議会は、委員15人以内で組織し、教育委員会が委嘱（任命）します。委員構成は以下のとおりです。

- ・スポーツ関係団体の代表者
- ・学識経験を有するもの
- ・市民の代表者
- ・関係行政機関の職員

(3) 任期

2年間（平成31年4月1日から令和3年3月31日まで）

(4) 磐田市スポーツ推進審議会委員名簿

(敬称略)

	氏名	選出区分	役職名
会長	河島 直明	スポーツ関係団体の代表者	NPO 法人磐田市スポーツ協会 会長
副会長	酒井 勇二	スポーツ関係団体の代表者	磐田市スポーツ推進委員会 会長
委員	岡村 美也子	スポーツ関係団体の代表者	磐田市スポーツ推進委員会 副会長
委員	加藤 真史	スポーツ関係団体の代表者	株式会社ジュビロ ホームタウン部長
委員	田井中 亮範	スポーツ関係団体の代表者	ヤマハ発動機株式会社 総務部スポーツ推進グループ
委員	山本 好夫	スポーツ関係団体の代表者	スポーツクラブたはら 理事長
委員	中西 健一郎	学識経験を有する者	静岡産業大学 経営学部 教授 スポーツ振興部スポーツアドバイザー
委員	玉田 文江	市民の代表者	磐田市自治会連合会 副会長
委員	角 一幸	市民の代表者	磐田市観光協会 会長
委員	高橋 廣行	市民の代表者	磐田市身体障害者福祉会 事務局長
委員	田中 都夫	市民の代表者	(公募)
委員	平野 智子	市民の代表者	(公募)
委員	清水 孝彦	関係行政機関の職員	磐田市立竜洋西小学校 校長
委員	小嶋 久典	関係行政機関の職員	磐田市立南部中学校 校長

任期:平成 31 年4月1日から令和3年3月 31 日まで

資料編

**令和2年度
磐田市
市民スポーツ意識調査**

報告書

磐田市 市民スポーツ意識調査 報告書

目 次

1 調査概要	36
(1)調査の目的	36
(2)調査項目	36
(3)調査の設計	36
(4)発送・回収状況	36
2 調査結果	37
属性	37
スポーツ・運動について	38
スポーツ観戦について	53
体育施設について	57
日本で行われた、または行われる世界大会(ラグビーW杯・オリンピック)について	63
磐田市の特徴あるスポーツ振興事業について	72
スポーツのまちづくり施策について	73

1 調査概要

(1) 調査の目的

この調査は、「次期磐田市スポーツ推進計画」策定の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査項目

- 属性
- スポーツ・運動について
- スポーツ観戦について
- 体育施設について
- 日本で行われた、または行われる世界大会(ラグビーW杯・オリンピック)について
- 磐田市の特徴あるスポーツ振興事業について
- スポーツのまちづくり施策について

(3) 調査の設計

- 調査対象：20歳以上の市民3,000人
- 調査方法：無作為抽出による郵送配布・郵送回収
- 調査期間：令和2年4月1日～令和2年4月30日

(4) 発送・回収状況

対象者数	有効回収数	有効回収率
3,000人	945人	31.5%

※有効回収数：回収票から全く回答がないもの(白票)を除いた数

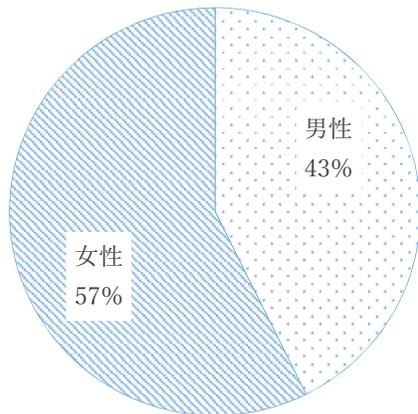
◎報告書を見る際の注意点

- (1) 回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率で示してある。
- (2) 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出したため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- (3) 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- (4) グラフにおいて、選択肢を省略して掲載している場合がある。
- (5) グラフにおいて0.0%を非表示としている場合がある。

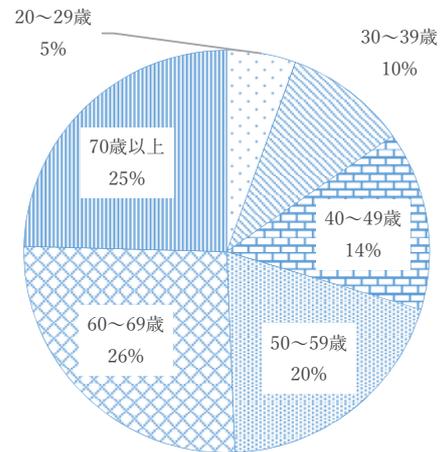
2 調査結果

■ 属性 ■

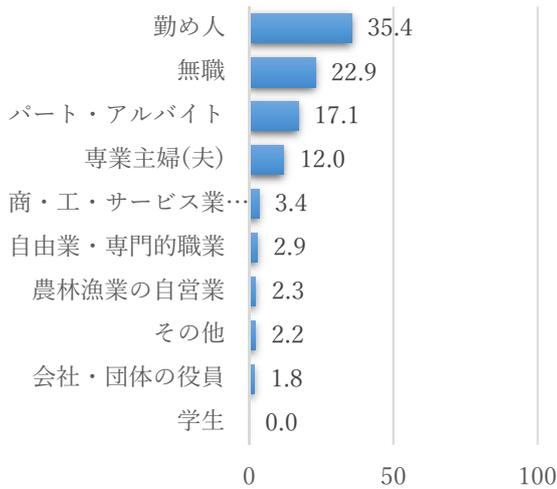
問1 性別



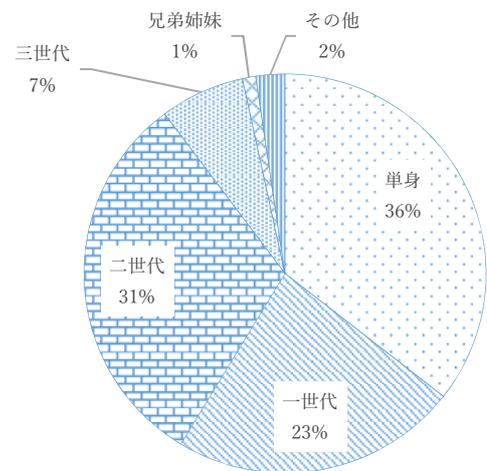
問2 年齢



問3 職業



問4 家族構成

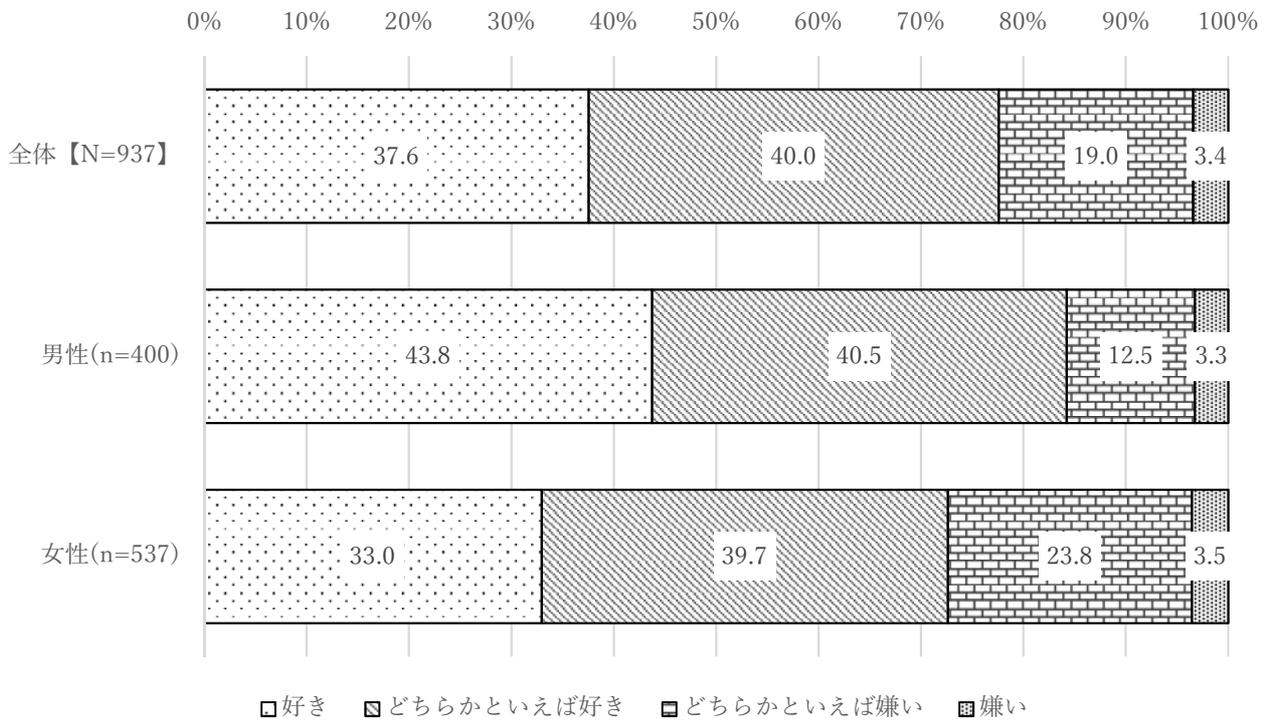


問5 居住地区

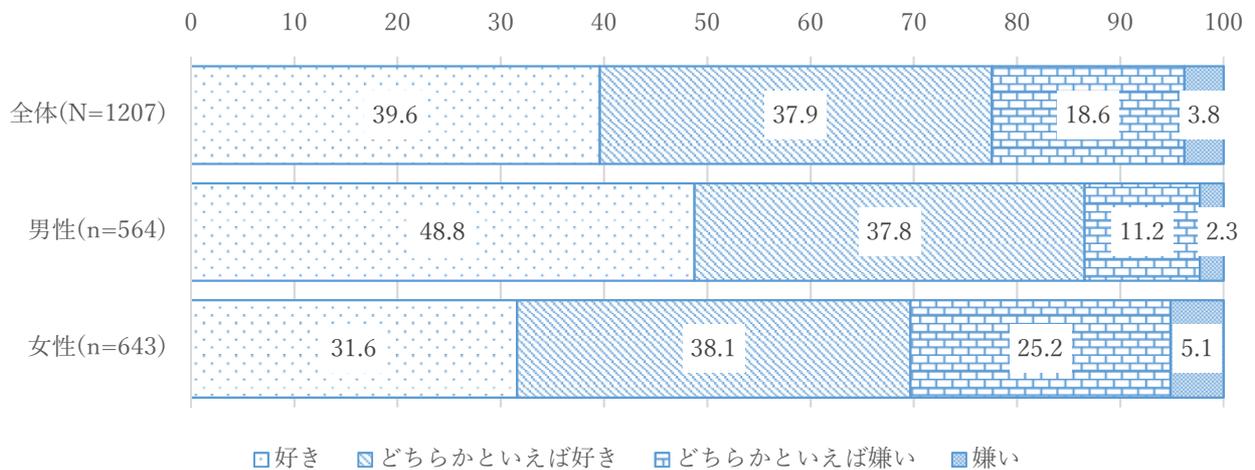


■ スポーツ・運動について ■

問6 あなたはスポーツや運動が好きですか。(該当するもの1つ選択)



【H25】

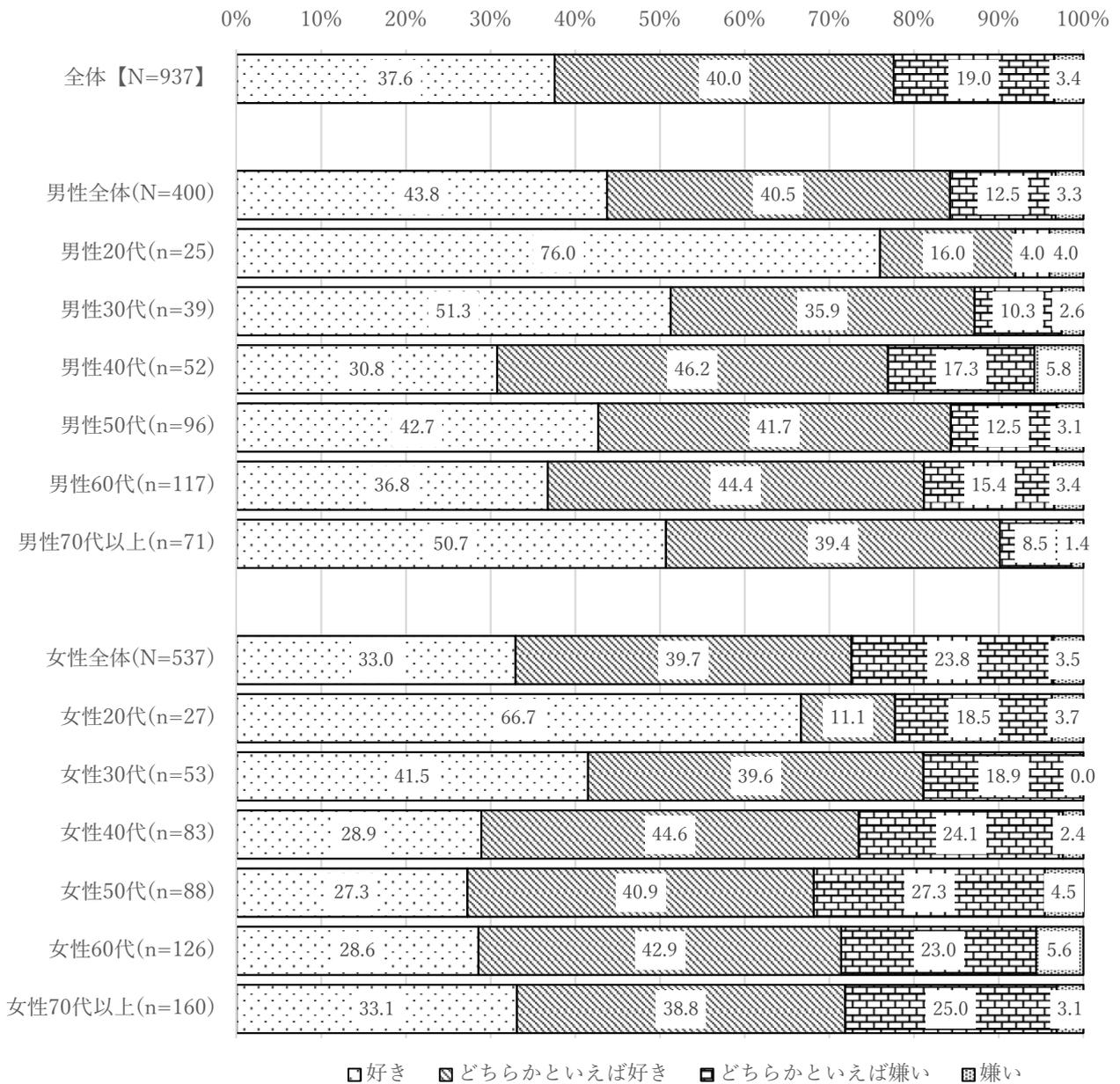


参考：平成25年度調査（前回）

運動・スポーツに対する好意は、「どちらかといえば好き」が40.0%と最も多く、次いで「好き」が37.6%となっている。一方、「嫌い」は3.4%となっている。

前回調査と比較すると、男性の「好き」が5.0ポイント、「どちらかといえば好き」が2.7ポイント高くなっている。「好き」「どちらかといえば好き」の割合については大きな変化は見られない。女性については3.0ポイント高くなっている。

《性年代別》 ※「無回答」を除いた回答者数(N)及び割合を掲載しています。

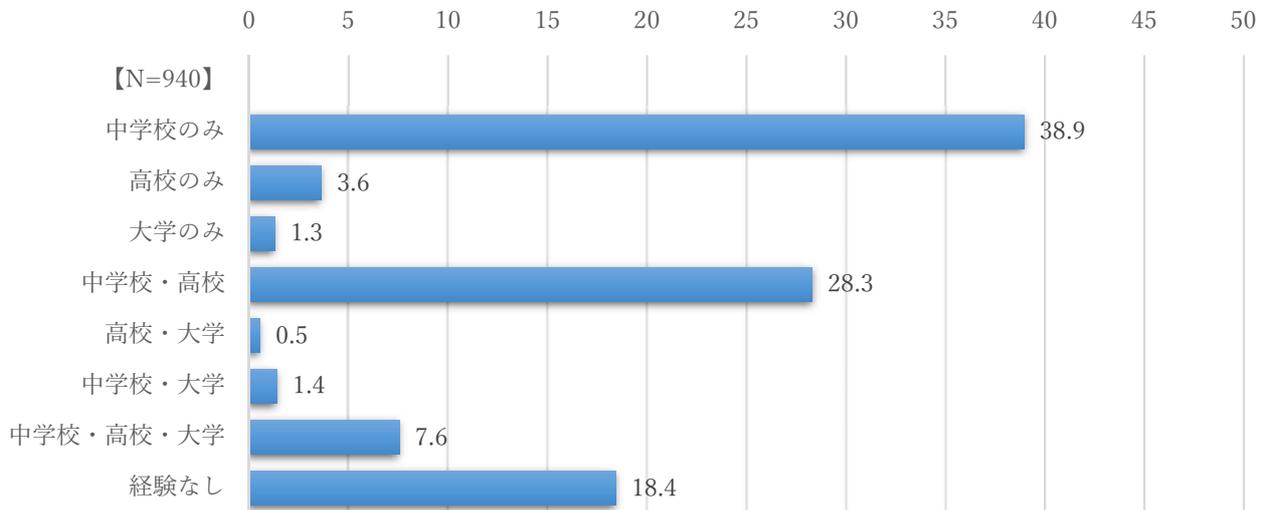


性年代別に見ると、男性20代で「好き」が7割を、女性20代で「好き」が6割を超えている。

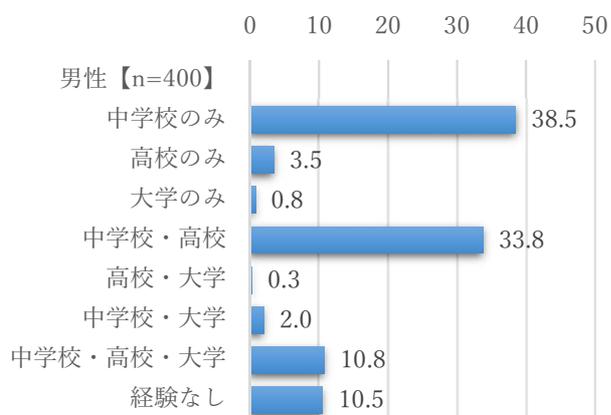
「好き」「どちらかといえば好き」の割合では、男性では40代が77%、女性では50代が68.2%と最も低い値である。

問7 あなたは、学校時代に運動部（クラブ）活動を経験していますか。
（該当するもの1つ選択）

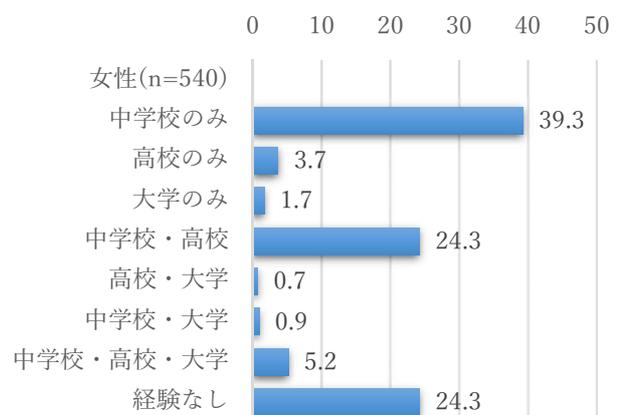
全 体



男 性



女 性

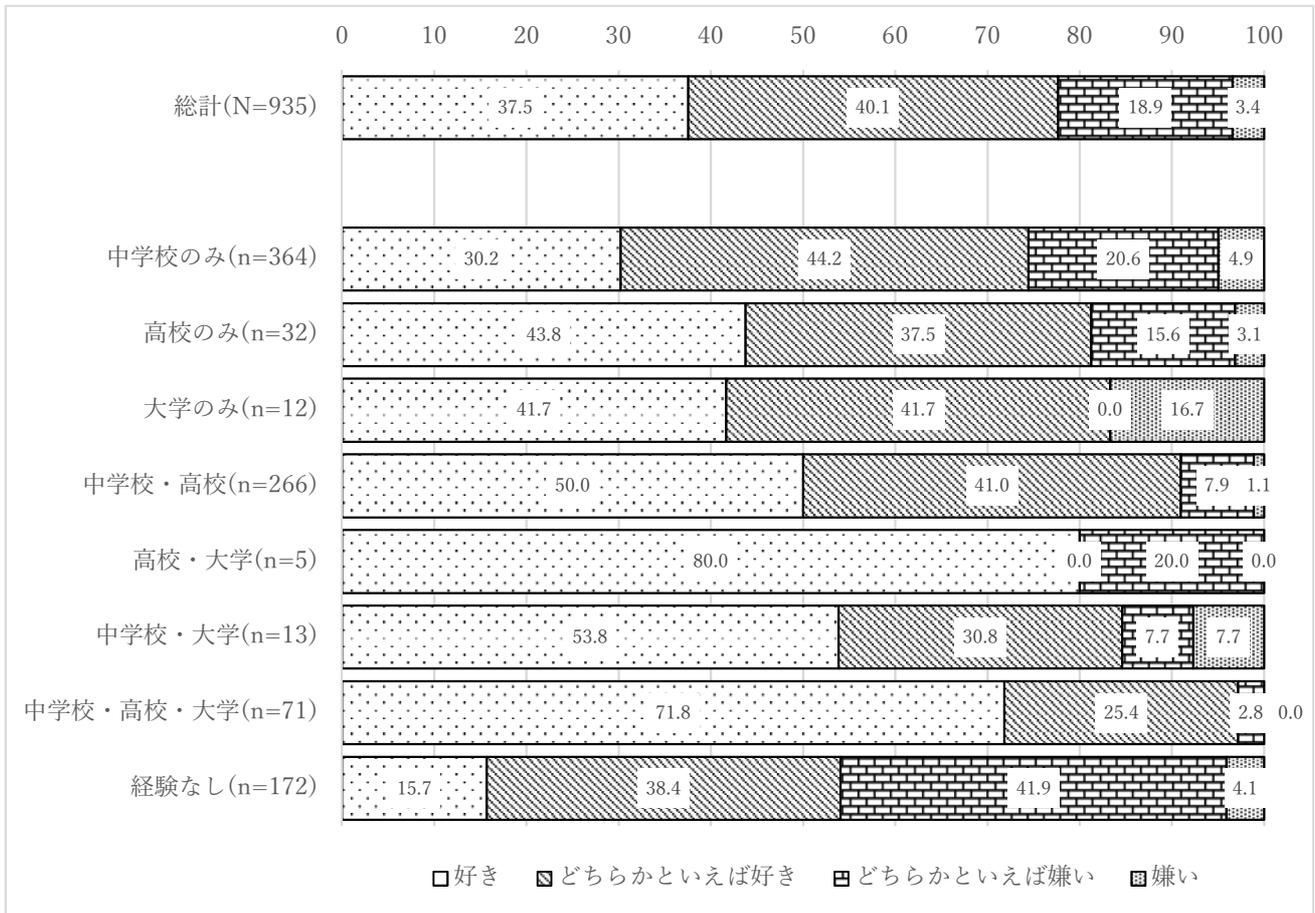


学校時代の運動部の経験は、「中学校のみ」が38.9%と最も高く、次いで「中学校・高校」が28.3%、「経験なし」が18.4%となっている。

性別で見ると、男性の方が「中学校・高校」において9.5ポイント高くなっている。一方、「経験なし」では女性の方が13.8ポイント高くなっている。

《「学校時代の運動部の経験」と「運動・スポーツへの好意」の関係》

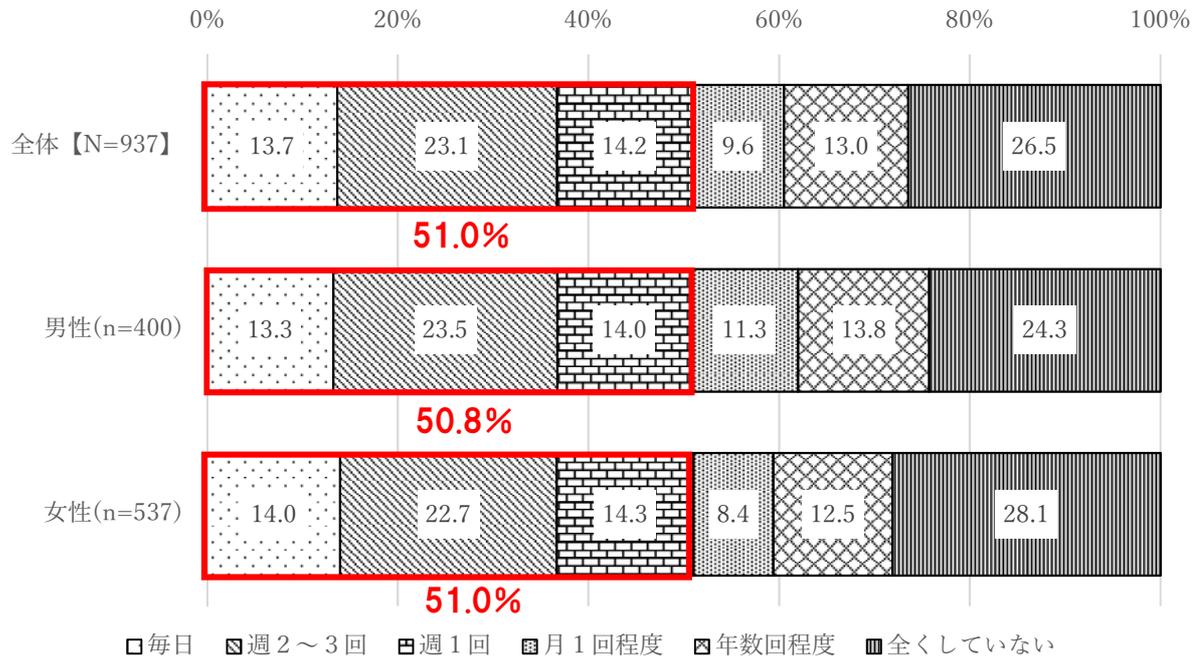
(問6と問7)



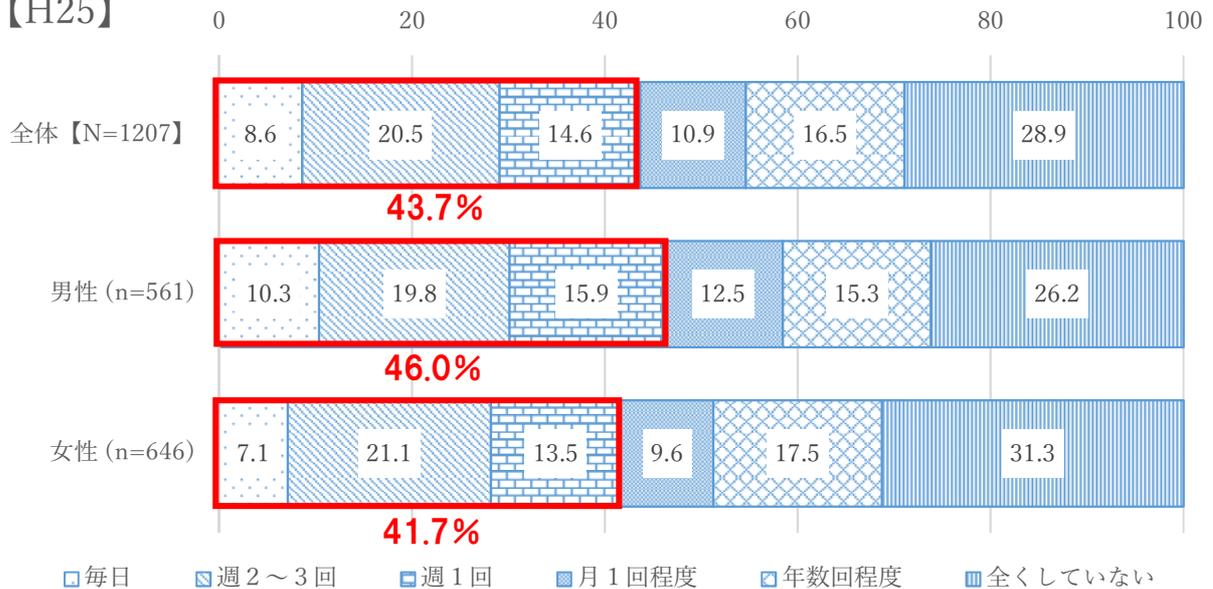
学校時代の運動部の経験について、項目ごとの回収数 (N) に、ばらつきがあるため、参考程度にしたい。

総体的に見ると、未経験者に比べ、経験者の方が好意感が高い。経験各年代のみでの経験者よりも、年代をまたいで継続して経験している人 (経験が長い人) の方が高い数値を示している。

問8 あなたは、この1年間でスポーツや運動をどのくらい行いましたか。
(該当するもの1つ選択)



【H25】



参考：平成25年度調査(前回)

この1年間の運動・スポーツの頻度は、「週2～3回」が23.1%と最も多く、次いで「週1回」が14.2%、「毎日」が13.7%などとなっている。一方「全くしていない」は、26.5%となっている。

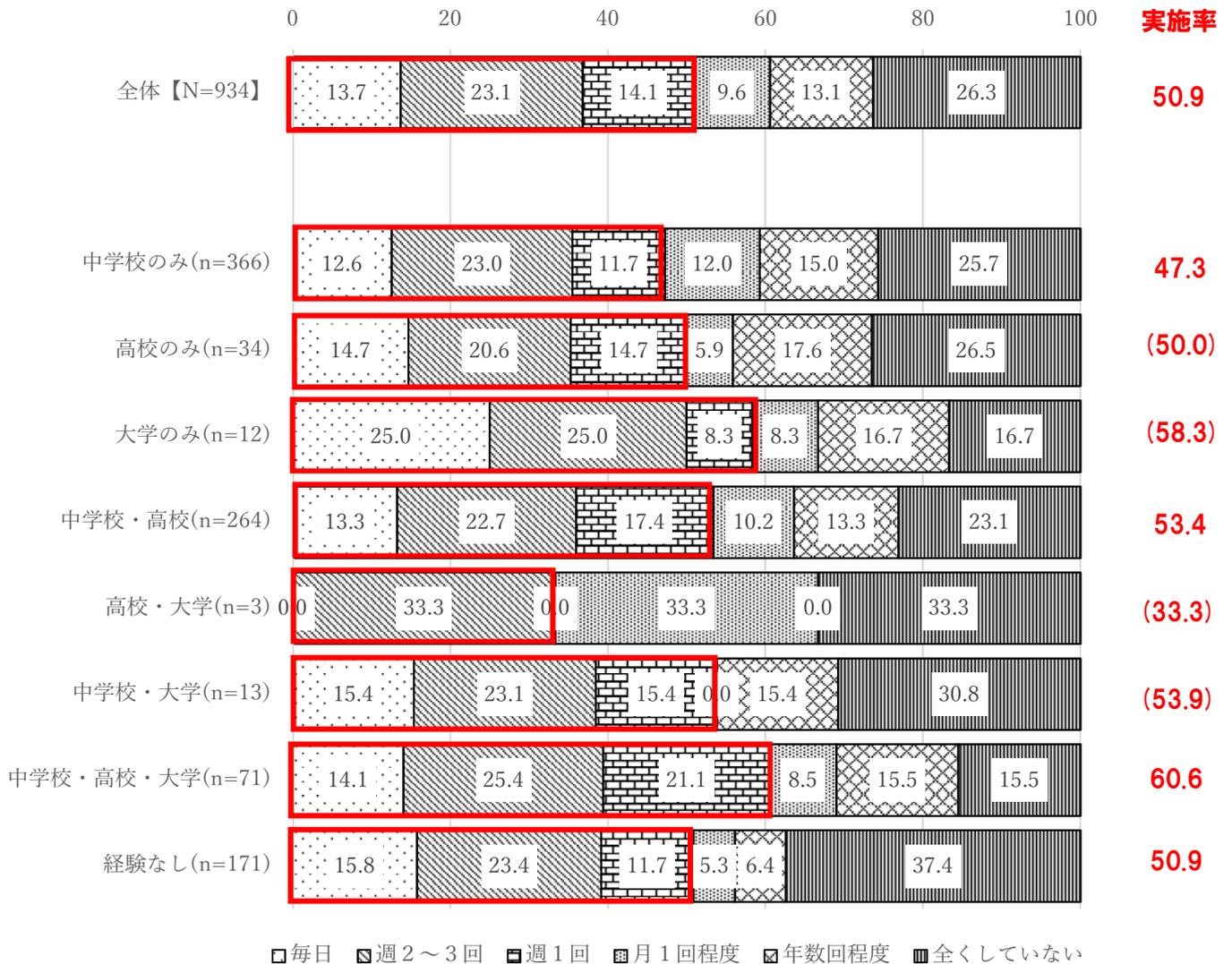
前回調査と比較すると、女性で「毎日」が6.9ポイント高くなっている。週1回以上のスポーツ実施率では全体で7.3ポイント、男性で4.8ポイント、女性で9.3ポイント高くなっている。このことから女性のスポーツ実施率が大きく向上していることが分かる。



性年代別に見ると、男性の60代と女性の50代、60代で「全くしていない」がそれぞれ3割を超えている。

週1回以上のスポーツ実施率では、女性30代が32.7%と最も低くなっている。また、男性の40代、50代、60代、女性の30代、40代、50代で5割を下回っている。

《「学校時代の運動部の経験」と「スポーツ実施率」の関係》 (問7と問8)

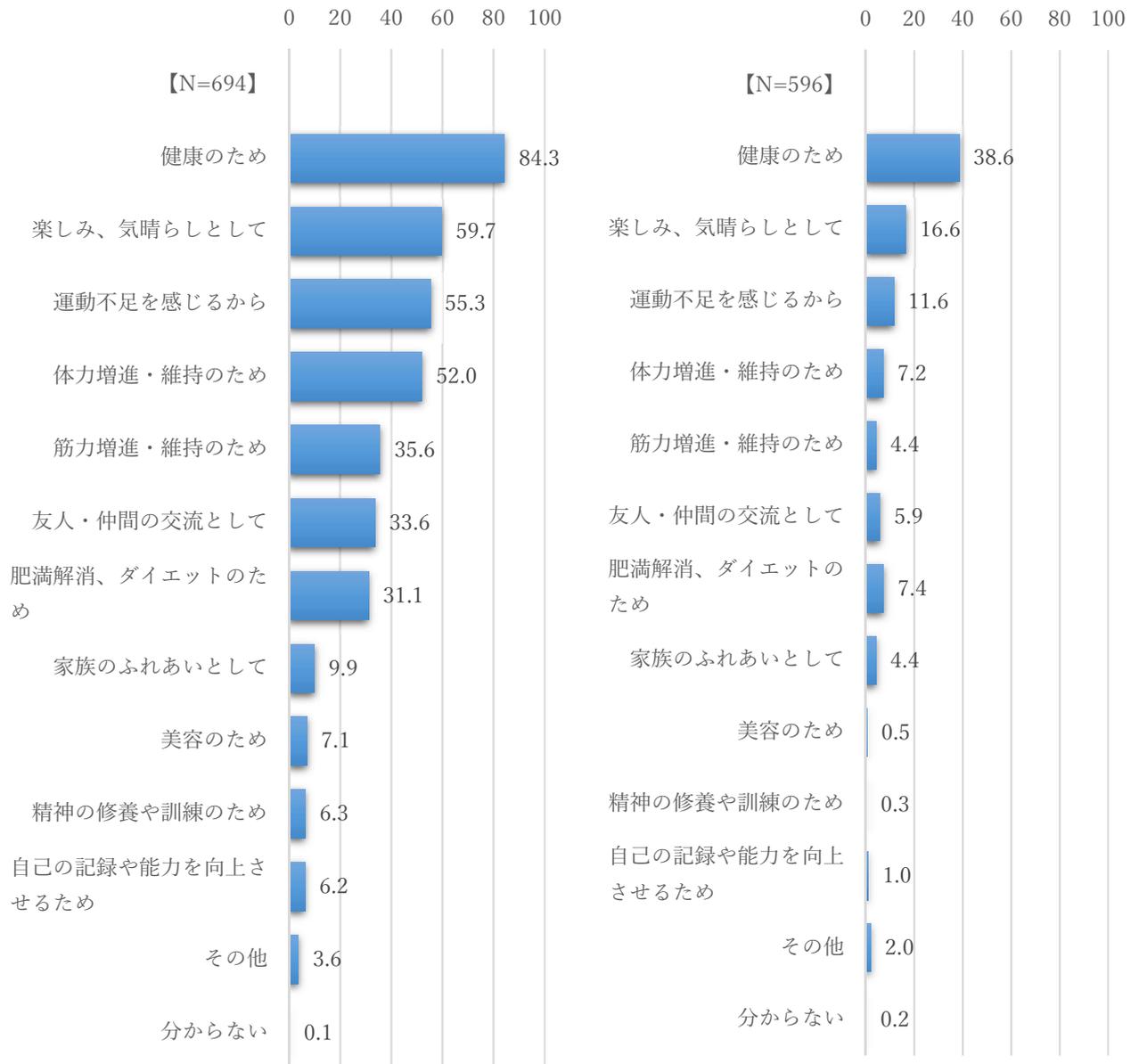


学校時代の運動部の経験について、項目ごとの回収数 (n) にばらつきがあるため、参考程度にしたい。実施率については、各項目の回収数 (n) が全体(N)の5%未満である場合は () としている。

中学校・高校・大学の経験者の実施率が 60.6%と、全体の実施率 50.9%よりも 9.7ポイント高くなっている。

問9 問8で「1,2,3,4,5」を選択された方にお聞きします。
 あなたは、この1年間に、運動やスポーツを実施したのはどのような理由からですか。（該当するもの全て選択）
 また、そのうちもっとも大きな理由はどれですか。

【主な理由】



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

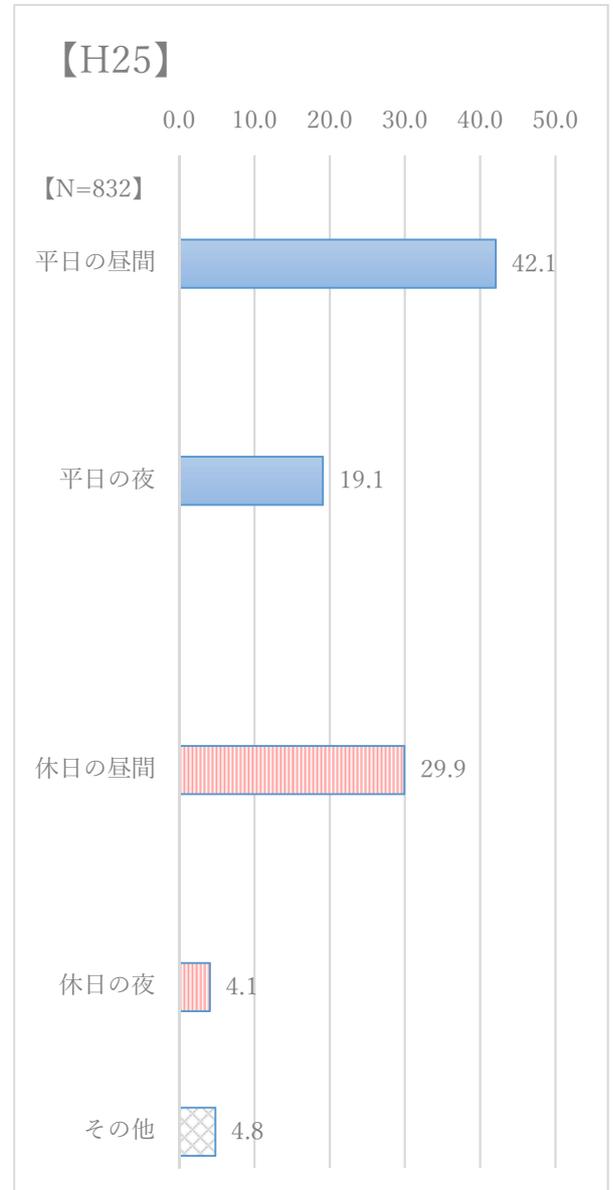
(※複数回答不可の項目であるため、N=回答者数(回答総数)で割った値を表示)

運動・スポーツを実施した理由は、「健康のため」が84.3%と最も多く、次いで「楽しみ、気晴らしとして」が59.7%、「運動不足を感じるから」が55.3%などとなっている。

もっとも大きな理由については、「健康のため」が38.6%と最も多く、次いで「楽しみ、気晴らしとして」が16.6%、「運動不足を感じるから」が11.6%などとなっている。

問 10 問8で「1,2,3,4,5」を選択された方にお聞きします。
 あなたは、スポーツや運動をいつ、誰とやっていますか。
 (該当する主なものを1つずつ選択)
 また、主に活動する曜日を回答票に記入してください。

《スポーツや運動を実施する時間帯》

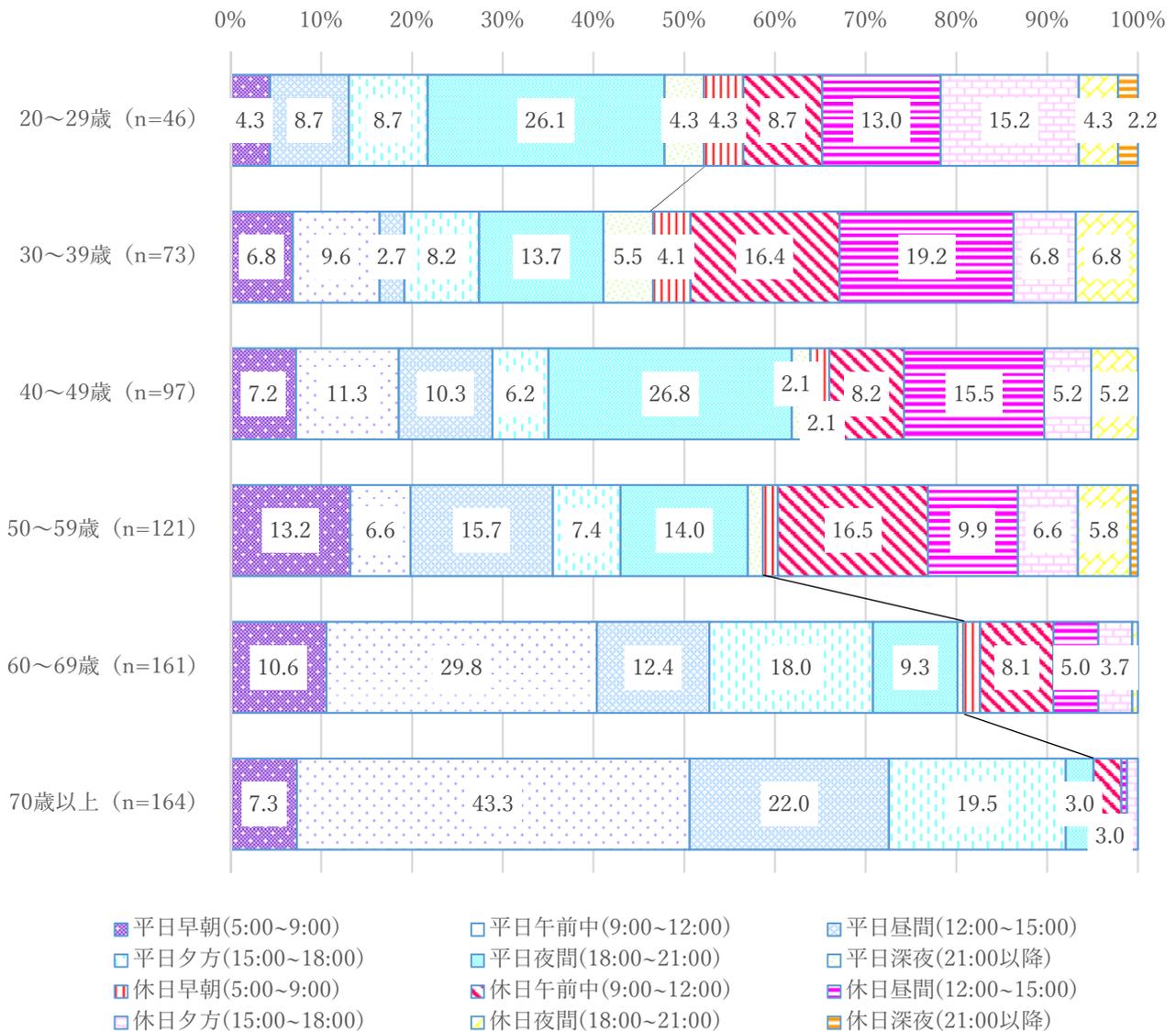


参考：平成 25 年度調査（前回）

運動・スポーツを行う時間帯は、「平日の午前中（9:00~12:00）」の 21.9%が最も多く、次いで「平日の昼間（12:00~15:00）」が 13.7%、「平日の夕方（15:00~18:00）」13.0%、「平日の夜間（18:00~21:00）」12.8%などとなっている。

前回調査は、項目が大きく異なるため、参考程度とする。

《「スポーツや運動を実施する時間帯」と「年代」の関係》 (問 10 と問2)



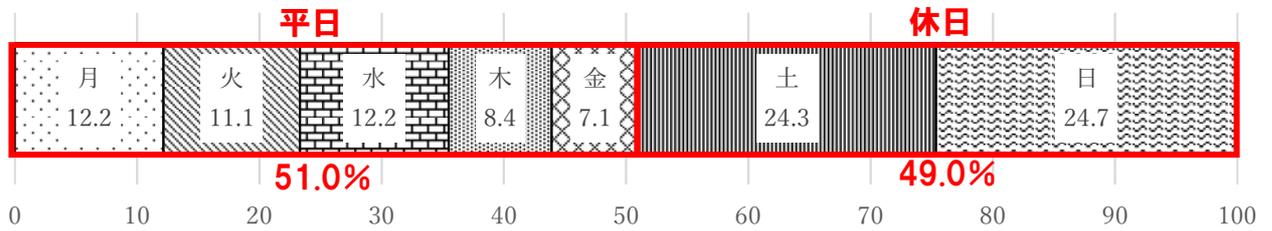
20代及び40代では、「平日の夜間（18:00~21:00）」の26.1%（20代）、26.8%（40代）が最も多い。

30代では、「休日の昼間（12:00~15:00）」が19.2%で最も多く、次いで「休日の午前中（9:00~12:00）」が16.4%となっている。

60代及び70歳以上では、「平日の午前中（9:00~12:00）」の29.8%（60代）、43.3%（70歳以上）21.9%が最も多い。60代以降では平日の実施割合が非常に高まる傾向にある。

《スポーツや運動を主に実施する曜日》

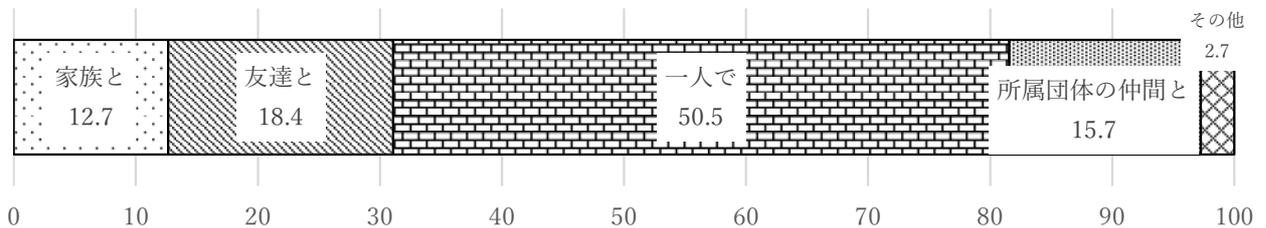
【N=296】



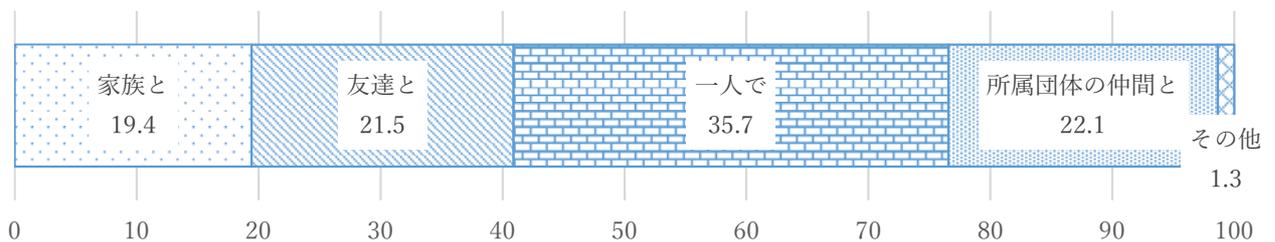
運動・スポーツを行う曜日は、「日曜日」が24.7%と最も多く、次いで「土曜日」が24.3%となっている。平日（月～金曜日）が51.0%、休日（土、日曜日）が49.0%となっている。

《スポーツや運動を実施する相手》

【N=656】



【H25】



参考：平成25年度調査（前回）

運動・スポーツを実施する相手では、「一人で」が50.5%と最も多く、次いで「友達と」が18.4%、「所属団体の仲間と」が15.7%、「家族と」が12.7%などとなっている。

前回調査と比較すると「一人で」が14.8ポイント高くなっている。

問 11 問8で「6 全くしていない（できない）」を選択された方にお聞きします。
 あなたが、スポーツや運動を全くしていない（できない）理由は何ですか。（該当するものを全て選択）



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

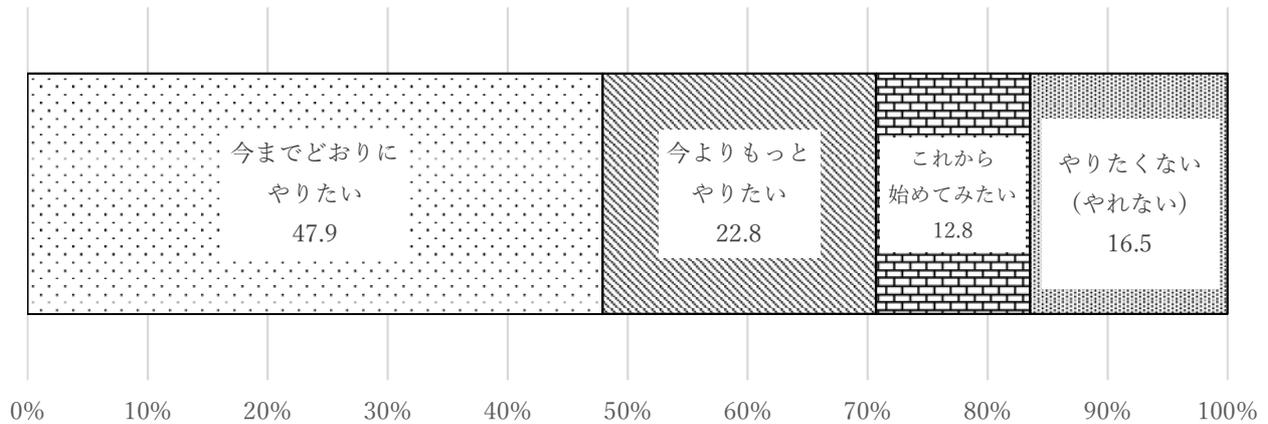
参考：平成 25 年度調査（前回）

運動・スポーツが全くしていない（できない）理由は、「仕事や家事が忙しいから」が 51.4%と最も多く、次いで「始めるきっかけや機会がないから」が 32.8%、「病気・怪我・高齢など身体的な理由から」が 28.1%、「時間が合わないから」が 28.1%などとなっている。

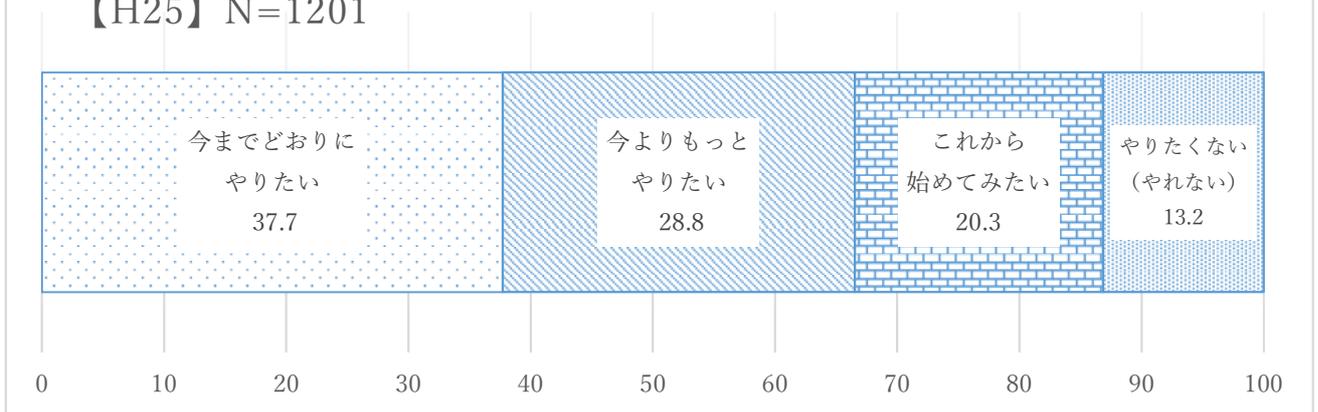
前回調査と比較すると、「始めるきっかけや機会がないから」が 5.3 ポイント低くなっている。

問 12 あなたは、スポーツや運動の取組について、今後どのように考えていますか。(該当するものを1つ選択)

【N=935】



【H25】 N=1201

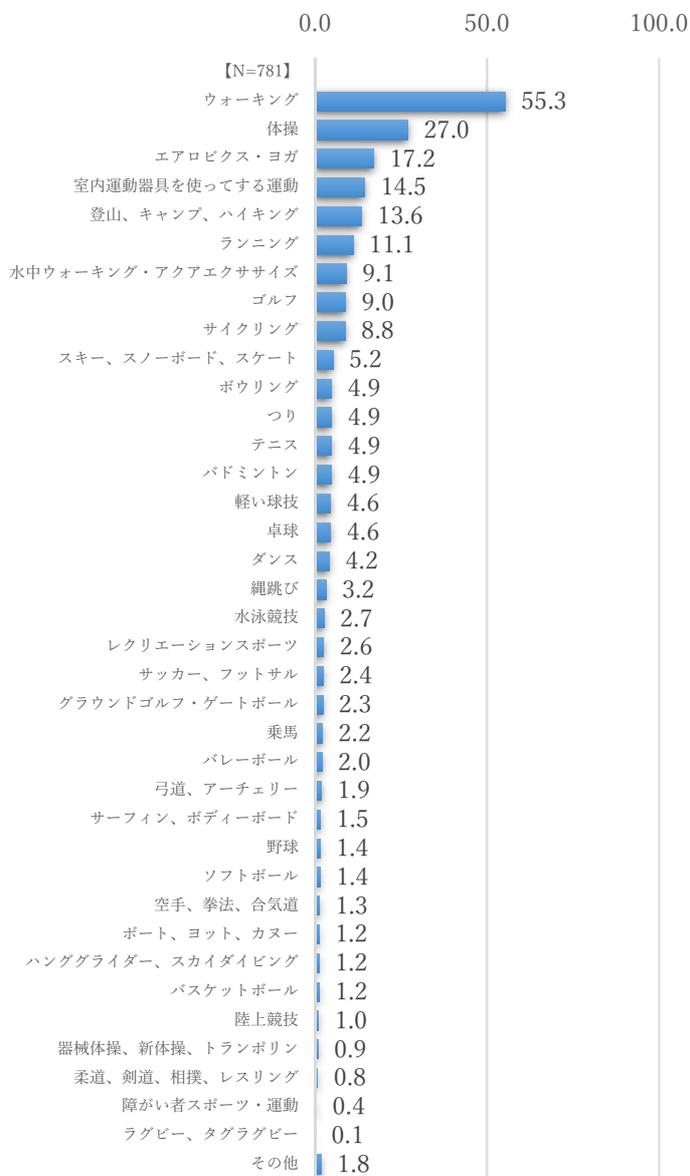


参考：平成 25 年度調査（前回）

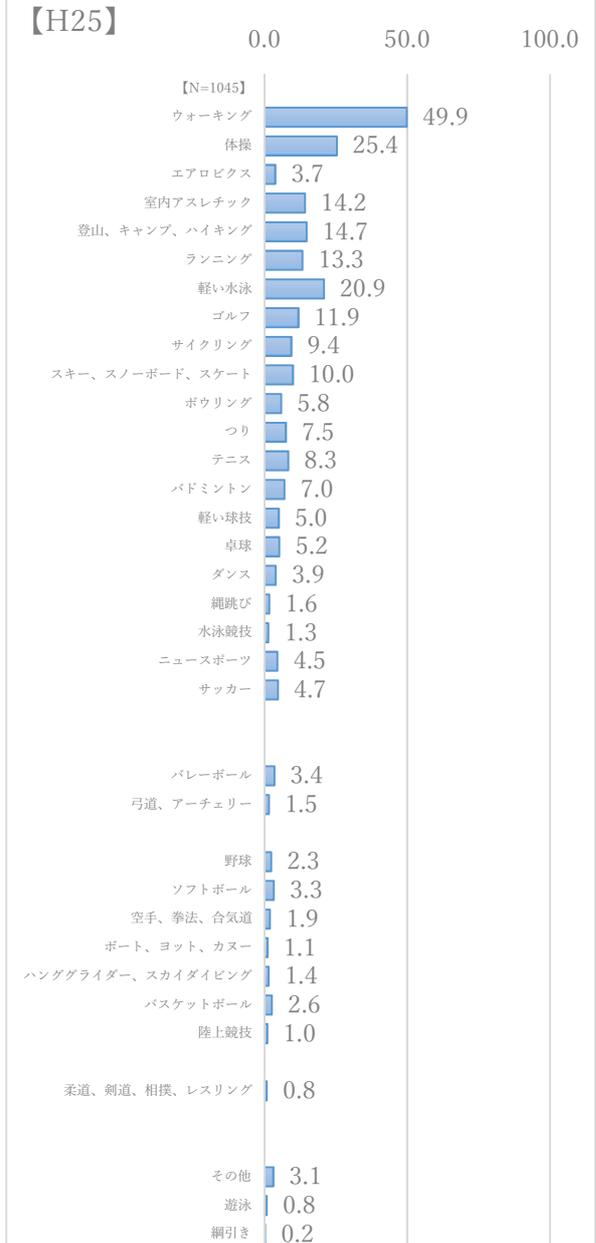
運動・スポーツに対する今後の考えは、「今までどおりにやりたい」が 47.9%と最も多く、次いで「今よりもっとやりたい」が 22.8%、「やりたくない(やれない)」が 16.5%、「これから始めてみたい」が 12.8%となっている。

前回調査と比較すると、「今までどおりにやりたい」が 10.2 ポイント高くなり、「これから始めてみたい」が 7.5 ポイント低くなっている。

問 13 問 12で「1 今までどおりやりたい」「2 今よりもっとやりたい」「3 これから始めてみたい」を選択された方にお聞きします。
 あなたが、継続してやってみたい、今後やってみたいと思うスポーツや運動は何ですか。(該当するものを3つ以内で選択)



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

参考：平成 25 年度調査（前回）

今後やってみたい運動・スポーツは、「ウォーキング」が 55.3%と最も多く、次いで「体操」が 27.0%となっている。また、「競技スポーツ・運動」よりも気軽に始められる「比較的軽いスポーツ・運動」が上位を占めている。

前回調査と比較すると、「ウォーキング」が 5.4 ポイント高くなった。また、前回調査の選択肢にはなかった「ヨガ」をエアロビクスの項目に追加したところ、13.5 ポイント高くなった。

問14 問12で「1 今までどおりやりたい」「2 今よりもっとやりたい」「3 これから始めてみたい」を選択された方にお聞きます。

あなたが、今後日常生活に運動・スポーツを（さらに）実施する場合、どの時間帯にやってみたいと思いますか。（該当するものを3つ以内で選択）

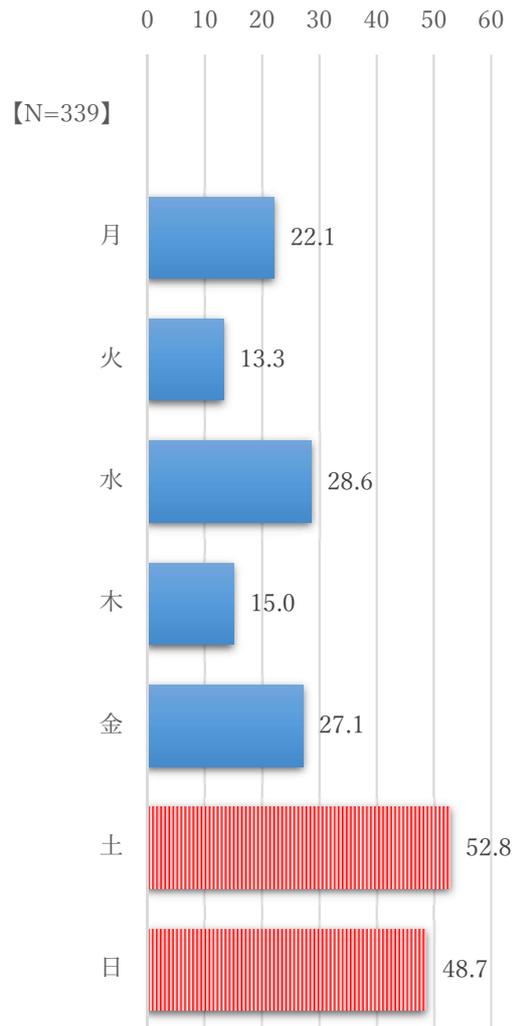
実施したい曜日があればその曜日を回答票に記入してください。（3つ以内で記入）

《さらに実施したい時間帯》



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

《さらに実施したい曜日》



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

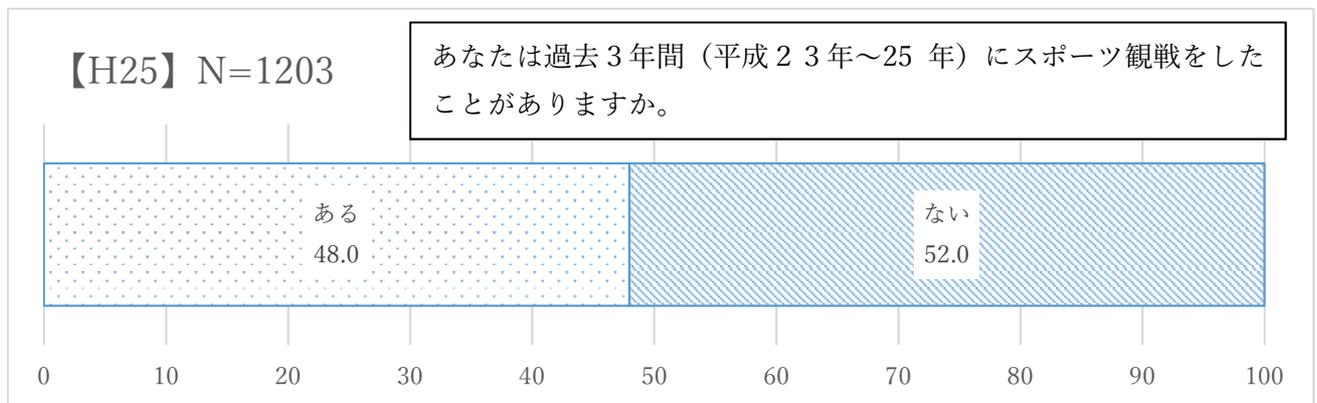
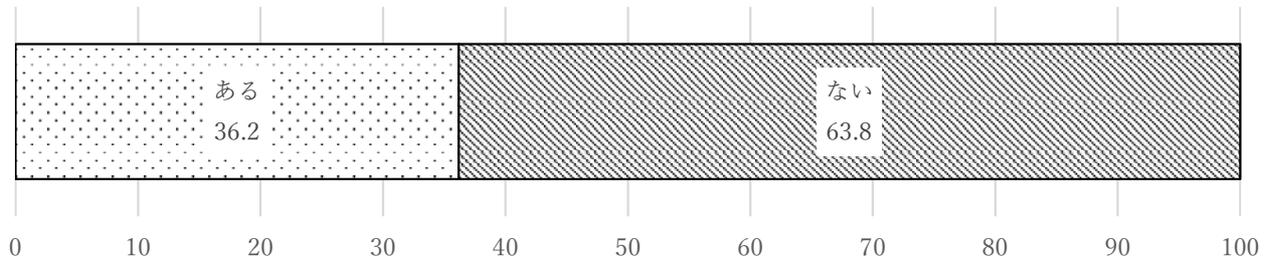
今後、運動・スポーツを（さらに）実施したい時間帯は、「平日の午前中（9:00~12:00）」が33.8%と最も多く、次いで「休日の午前中（9:00~12:00）」が26.9%、「平日の夜間（18:00~21:00）」が25.6%などとなっている。

今後、運動・スポーツを（さらに）実施したい曜日は、「土曜日」が52.8%と最も多く、次いで「日曜日」が48.7%、「水曜日」が28.6%などとなっている。

■ スポーツ観戦について ■

問15 あなたは、過去3年間（平成29年～令和元年）に、現地でスポーツ観戦をしたことがありますか。（該当するもの1つ選択）

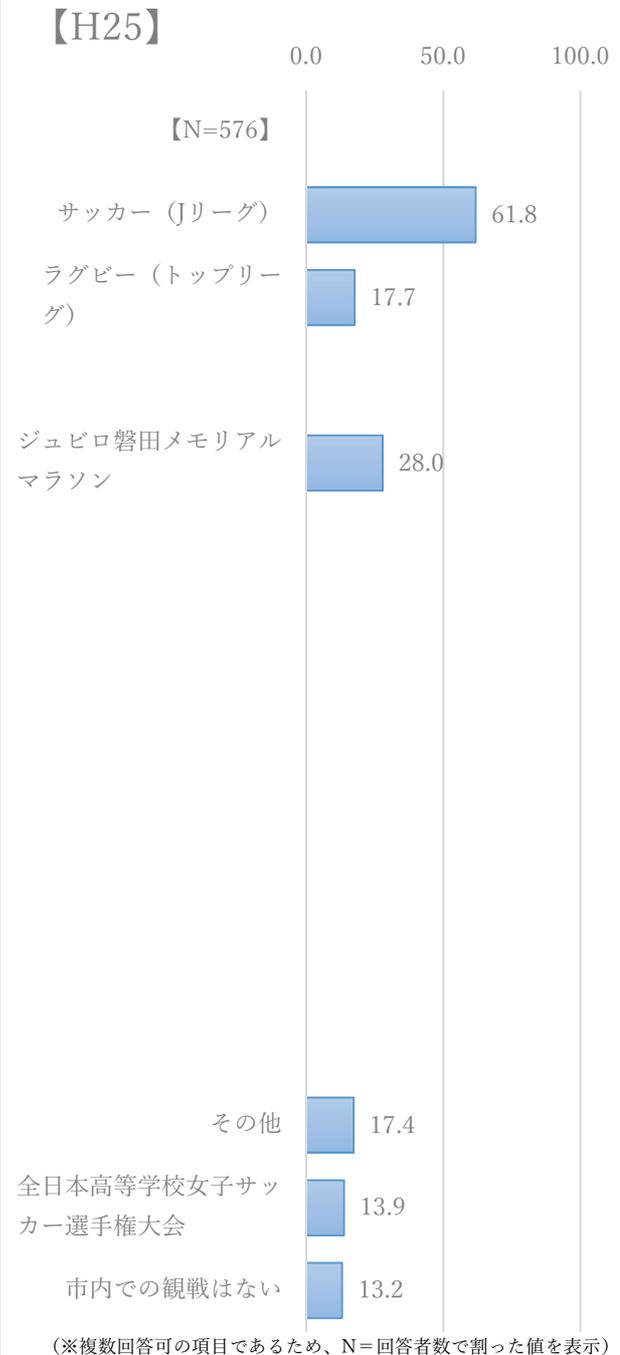
【N=937】



過去3年間でスポーツを現地で直接観戦した経験の有無では、「ある」が36.2%、「ない」が63.8%となっている。

前回調査は、質問内容が異なるため、参考程度とする。

問16 問15で「1 ある」を選択された方にお聞きします。
 あなたは、過去3年間（平成29年～令和元年）に、どのようなスポーツを現地で観戦したことがありますか。（該当するもの全て選択）

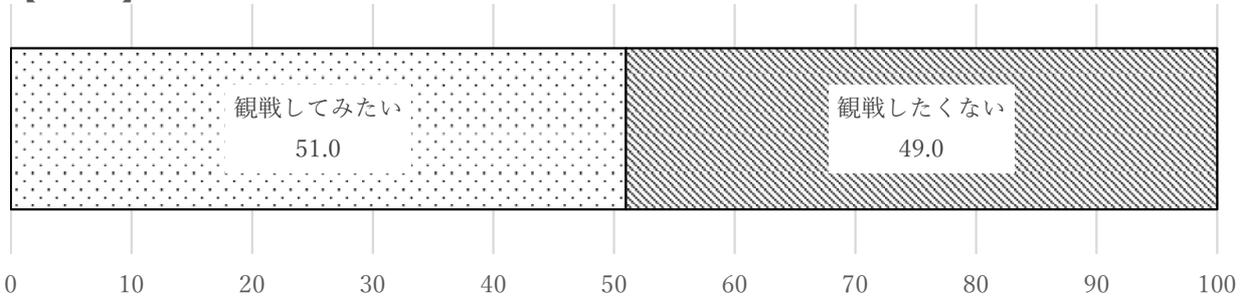


過去3年間に、現地で直接観戦したスポーツ種目は、「サッカー(Jリーグ)」が51.9%と最も多く、次いで「ラグビー(トップリーグ・海外ラグビー)」が29.2%、「家族や友人等が参加するスポーツ・ジュニアスポーツ」が26.3%となっている。

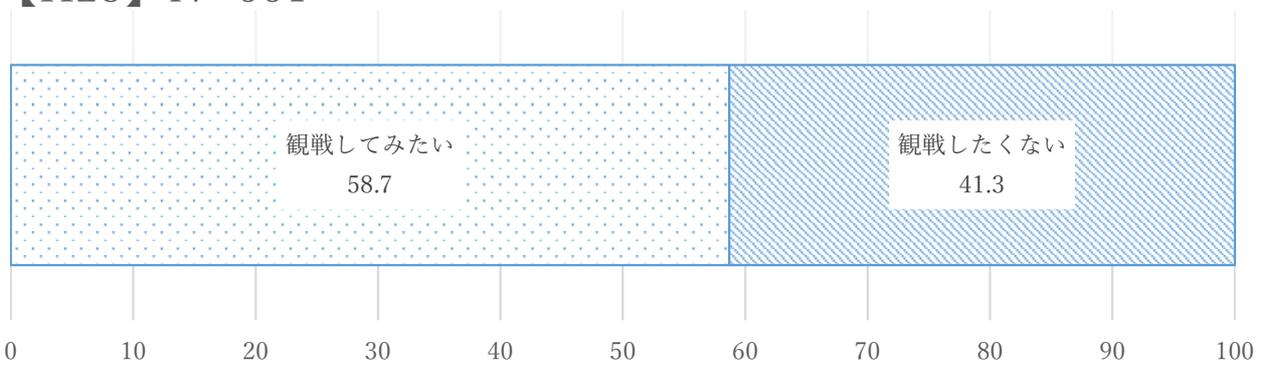
前回調査と比較すると、「ラグビー」が11.5ポイント高くなっている。

問17 問15で「2 ない」を選択された方にお聞きします。
 あなたは、今後現地でスポーツ観戦をしてみたいと思いますか。
 (該当するもの1つ選択)

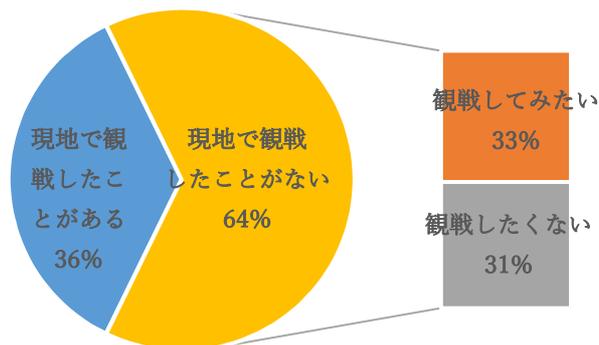
【N=612】



【H25】 N=661



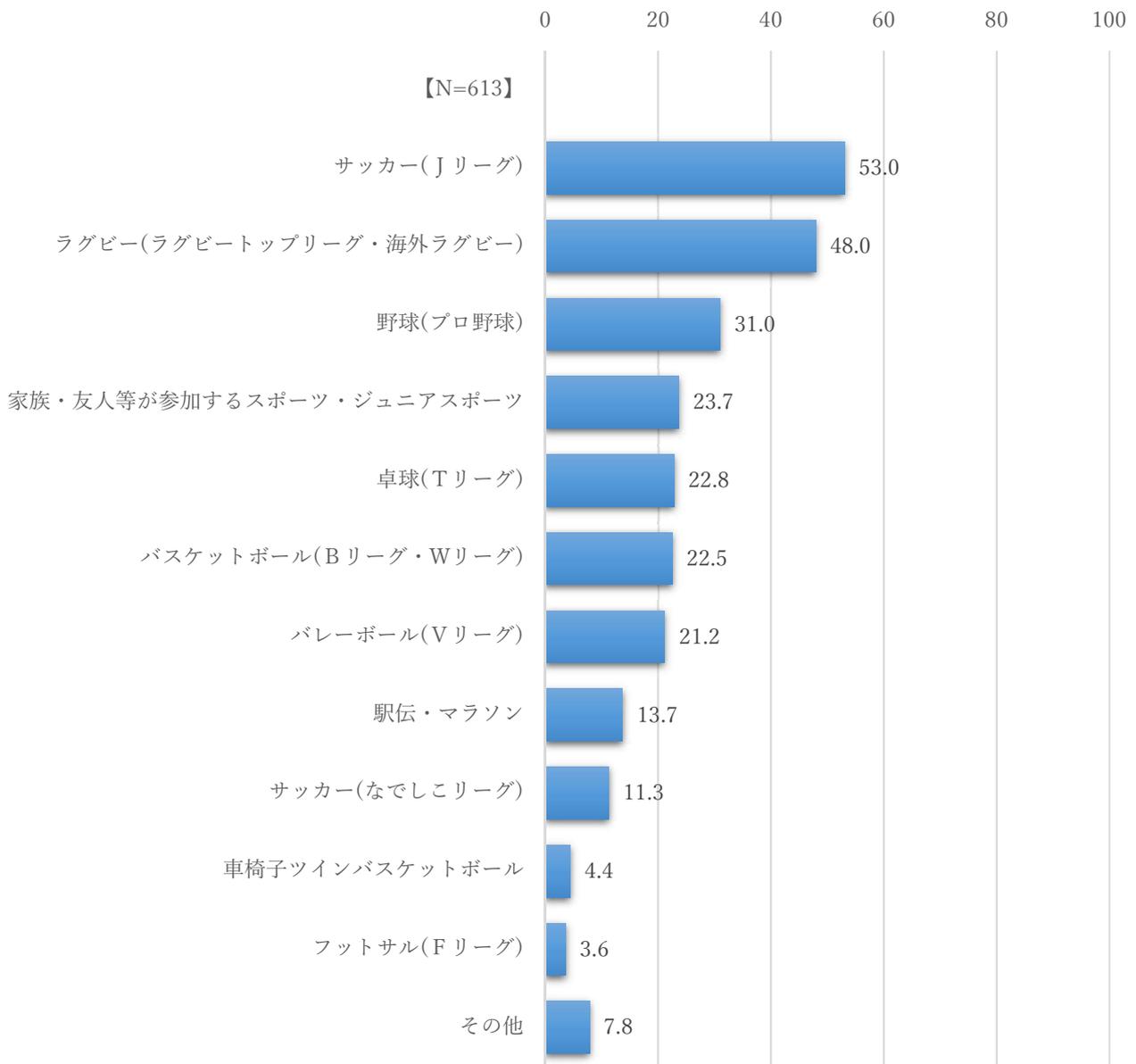
参考：平成25年度調査（前回）



過去3年間に現地でスポーツを直接観戦したことがない人に、今後観戦したいかを聞いたところ、「観戦してみたい」が51.0%、「観戦したくない」が49.0%となった。

問15と関連付けると、既に「現地で観戦したことがある」が36%、今後「観戦してみたい」が33%、今後も「観戦したくない」が31%となった。

問18 問15で「1 ある」または、問17で「1 観戦してみたい」を選択された方にお聞きします。
 あなたは、今後どのようなスポーツを現地で観戦してみたいと思いますか。(該当するもの全て選択)

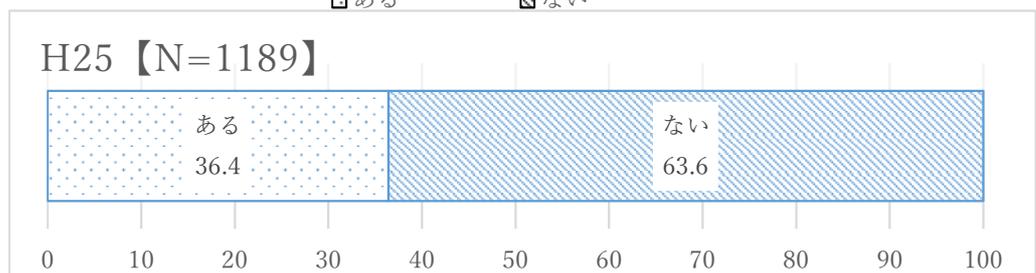
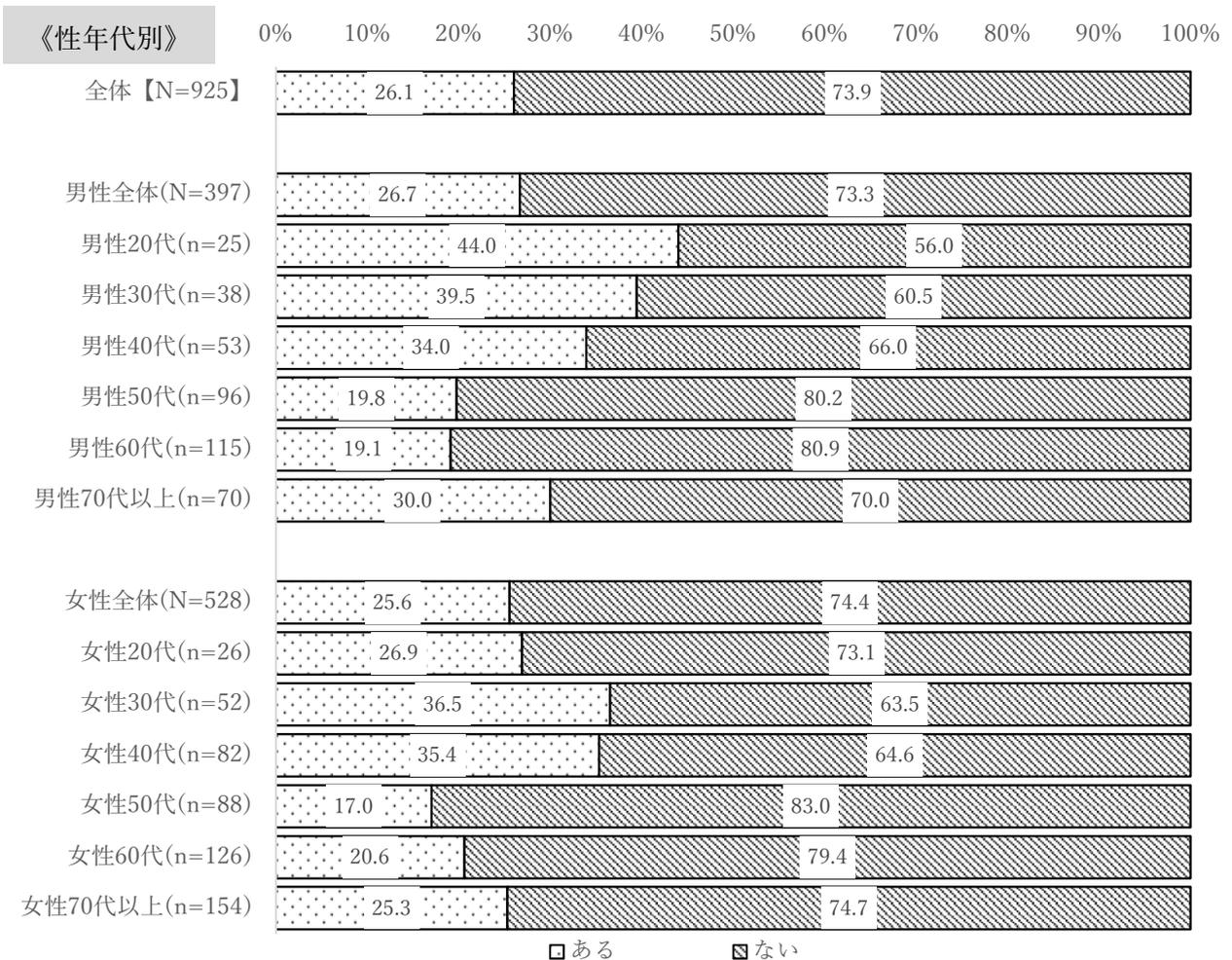


(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

過去3年間に「スポーツを現地で直接観戦したことがある。」又は、「経験は無いが、今後観戦したい」と回答した人に、現地で直接観戦したい種目を聞いたところ、「サッカー(Jリーグ)」が53.0%と最も多く、次いで「ラグビー(トップリーグ・海外ラグビー)」が48.0、「野球(プロ野球)」が31.0%、「家族・友人等が参加するスポーツ・ジュニアスポーツ」が23.7%。「卓球(Tリーグ)」が22.8%などとなっている。

■ 体育施設について ■

問19 あなたは、過去3年間（平成29年～令和元年）に、市内の体育施設を利用して、運動やスポーツをしたことがありますか。（該当するもの1つ選択）



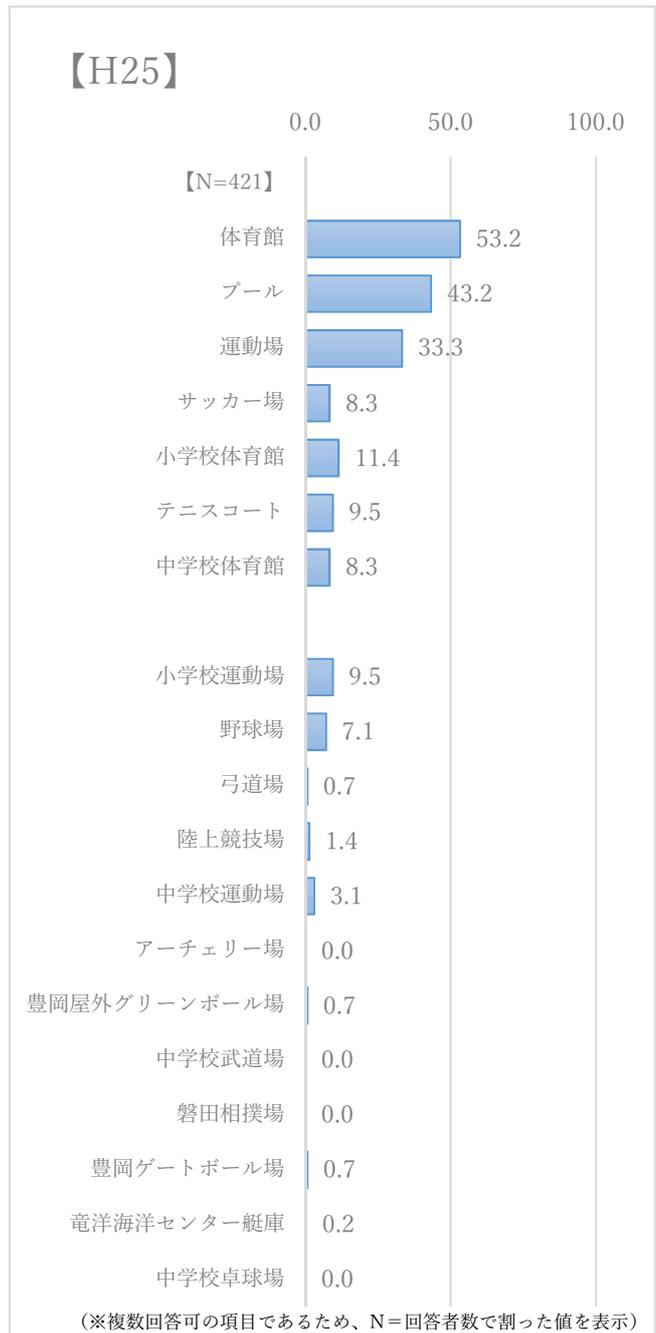
過去3年間の市内体育施設の利用有無では、「ある」がそれぞれ26.1%、「ない」が73.9%となっている。

性年代別に見ると、「男性20代」が44.0%と最も多く、次いで、「男性30代」が39.5%、「女性30代」が36.5%となっている。男女ともに50代及び60代の利用率が低い。前回調査と比較すると、「ある」が10.3ポイント低くなっている。

問20 問19で「1 ある」を選択された方にお聞きします。
 あなたが、利用した体育施設はどちらですか。（該当するもの全て選択）



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

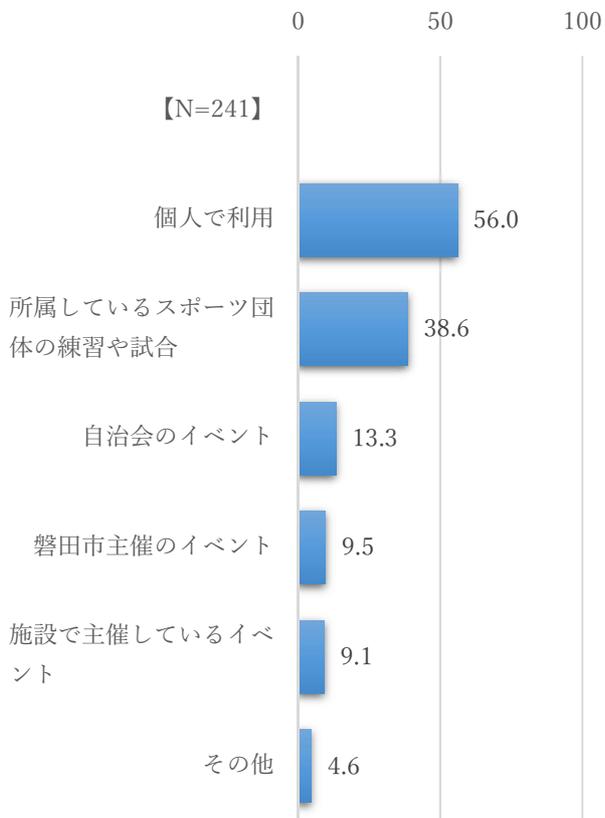


(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

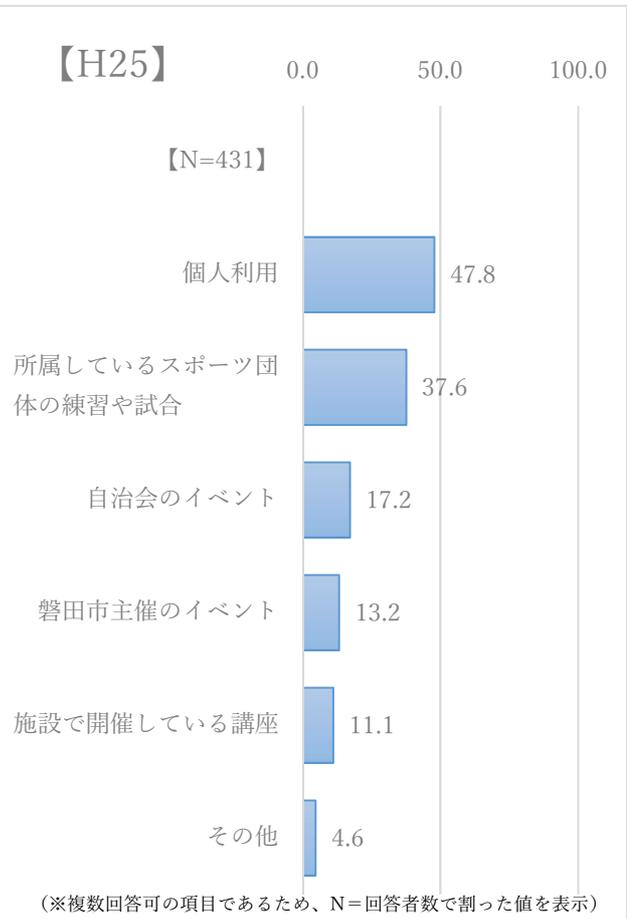
参考：平成25年度調査（前回）

主に利用する体育施設は、「体育館」が52.3%と最も多く、次いで「プール」が42.7%、「運動場」が23.7%、「サッカー場」及び「小学校体育館」が10.8%などとなっている。

問21 問19で「1 ある」を選択された方にお聞きします。
 あなたは、市内の体育施設をどのような時に利用されましたか。
 (該当するもの全て選択)



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)



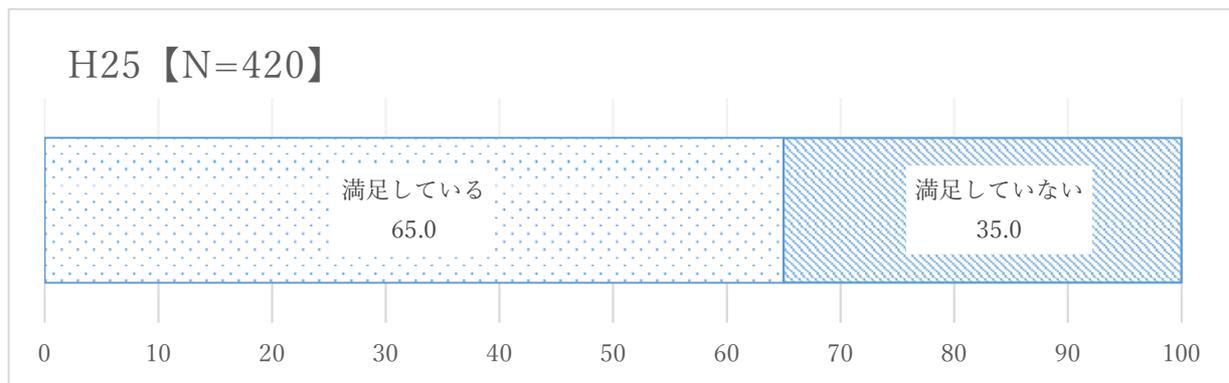
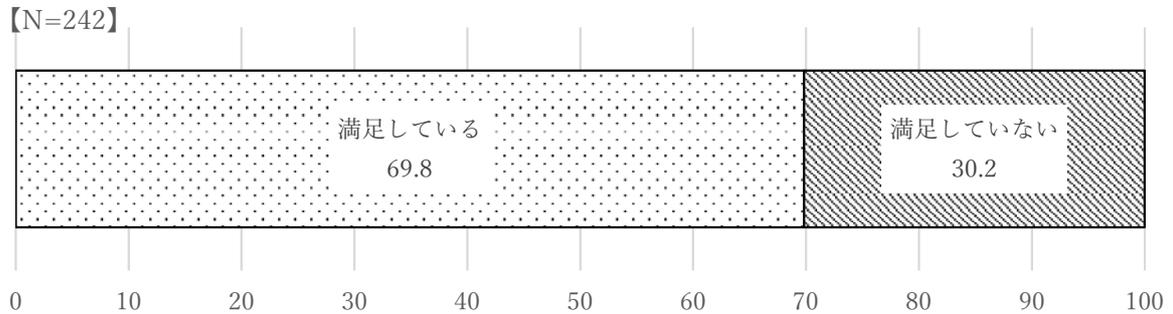
(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

参考：平成25年度調査（前回）

体育施設を利用した場面は、「個人で利用」が56.0%と最も多く、次いで「所属しているスポーツ団体の練習や試合」が38.6%となっている。

前回調査と比較すると、「個人で利用」が8.2ポイント高くなっている。

問22 問19で「1 ある」を選択された方にお聞きします。
あなたは、市内の体育施設に満足していますか。(該当するもの1つ
選択)



参考：平成25年度調査（前回）

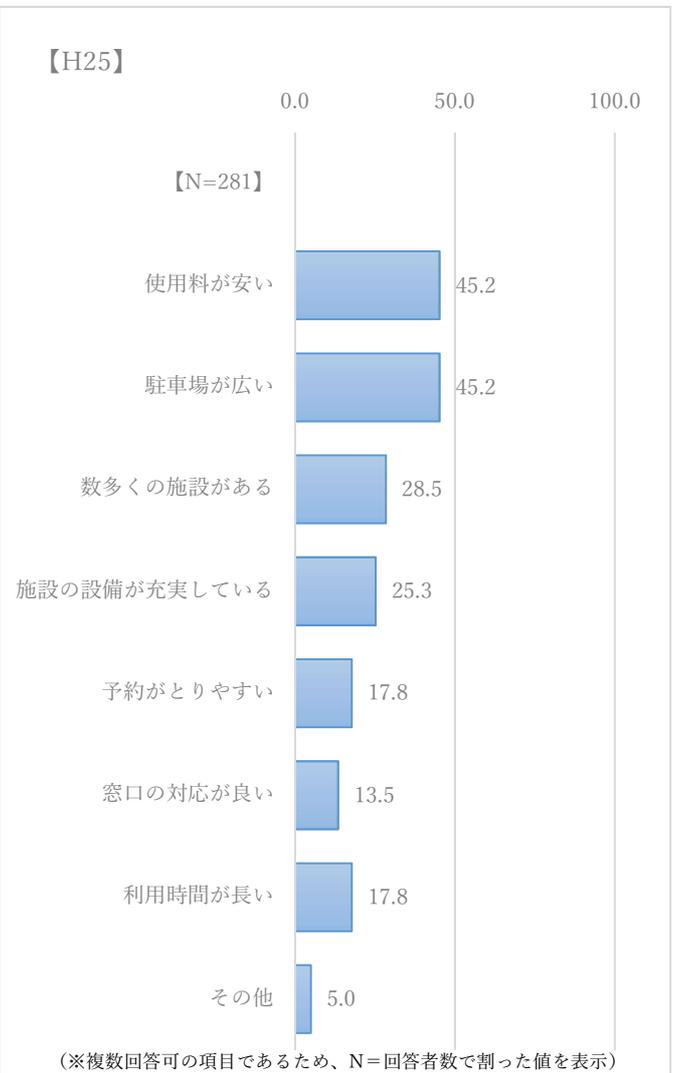
市内体育施設利用者の満足度は、「満足している」が69.8%、「満足していない」が30.2%となっている。

前回調査と比較すると、「満足している」が4.8ポイント高くなっている。

問23 問22で「1 満足している」を選択された方にお聞きします。
 あなたは、市内の体育施設のどんな点に満足していますか。
 (該当するもの全て選択)



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)



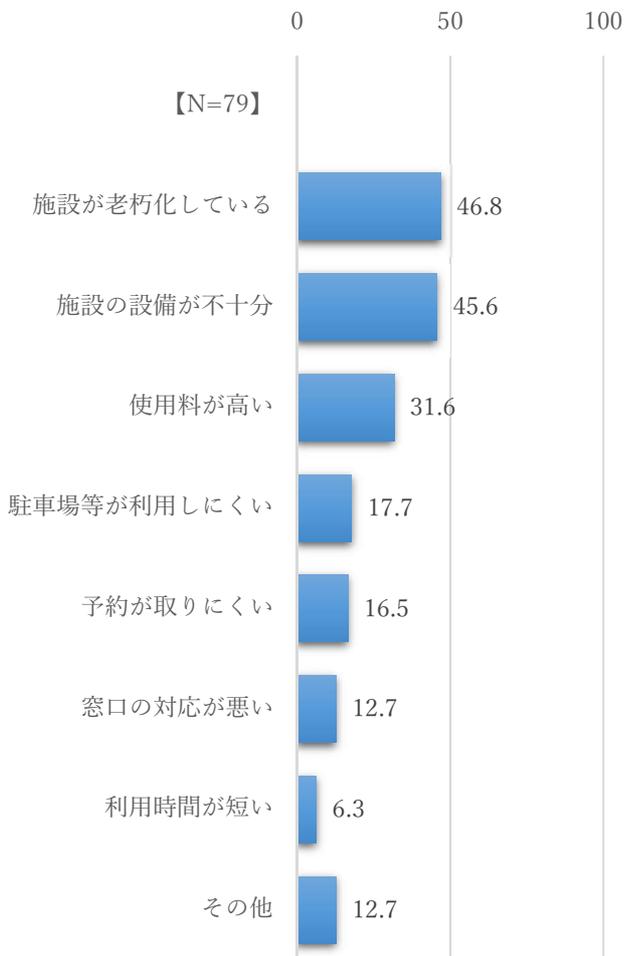
(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

参考：平成25年度調査（前回）

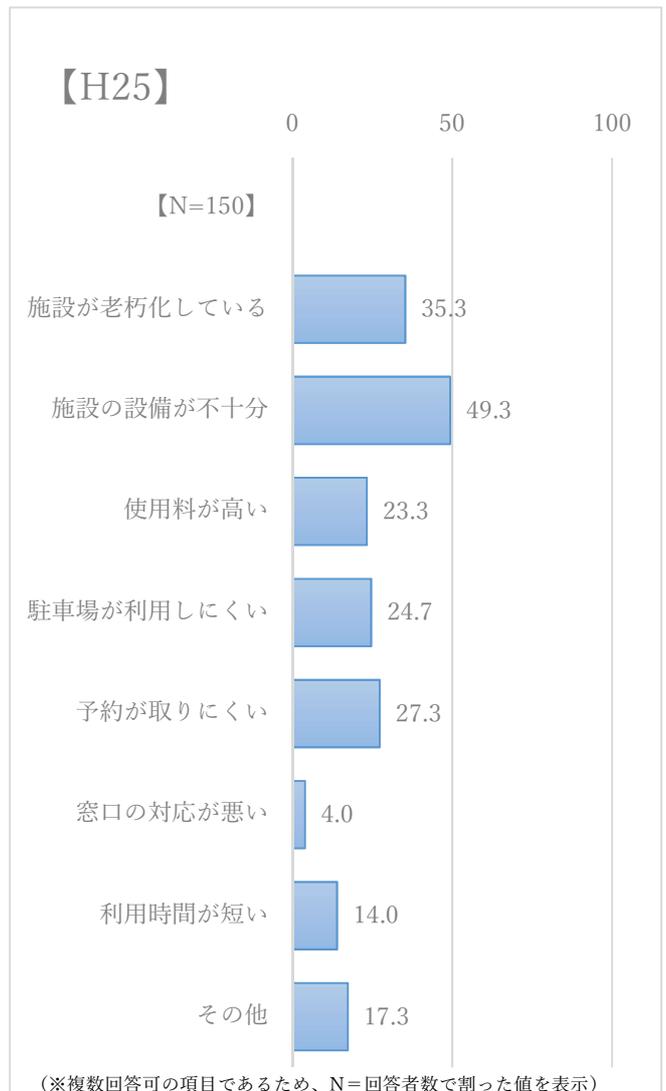
市内体育施設利用者の満足している点は、「使用料が安い」が45.6%と最も多く、次いで「駐車場が広い」が43.2%、「数多くの施設がある」が32.0%などとなっている。

前回調査と比較すると、「利用時間が長い」が4.8ポイント低くなっている。

問24 問22で「2 満足していない」を選択された方にお聞きします。
 あなたは、市内の体育施設のどんな点に満足していませんか。
 (該当するもの全て選択)



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

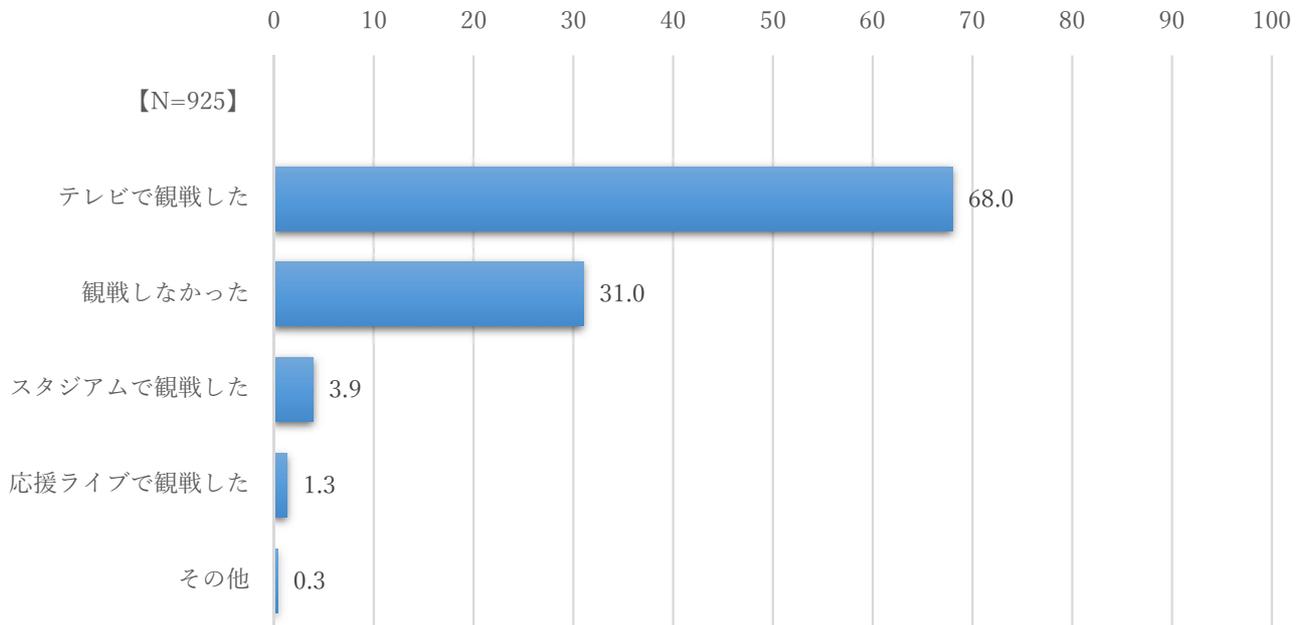
参考：平成25年度調査（前回）

市内体育施設利用者の満足していない点は、「施設が老朽化している」が46.8%と最も多く、次いで「施設の設備が不十分」が45.6%、「使用料が高い」が31.6%などとなっている。

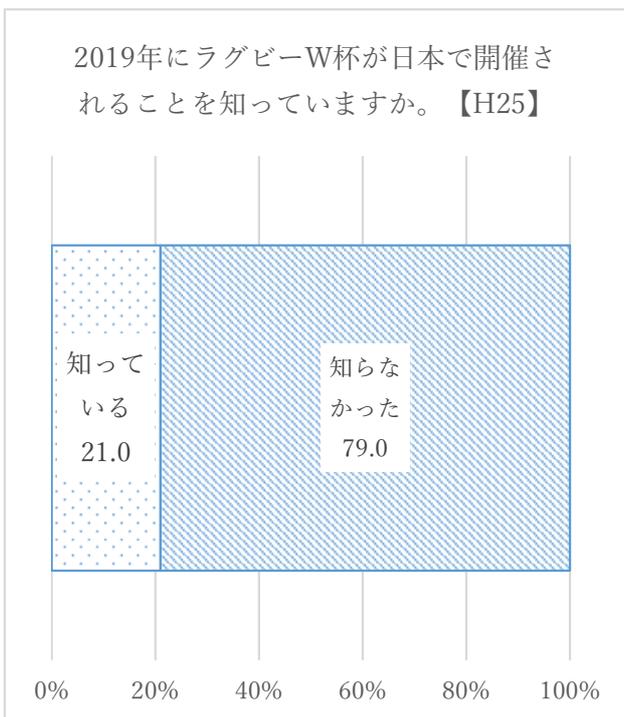
前回調査と比較すると、「施設が老朽化している」が11.5ポイント高くなっている。「予約が取りにくい」が10.8ポイント低くなっている。

■日本で行われた、または行われる世界大会(ラグビーW杯・オリンピック)について■

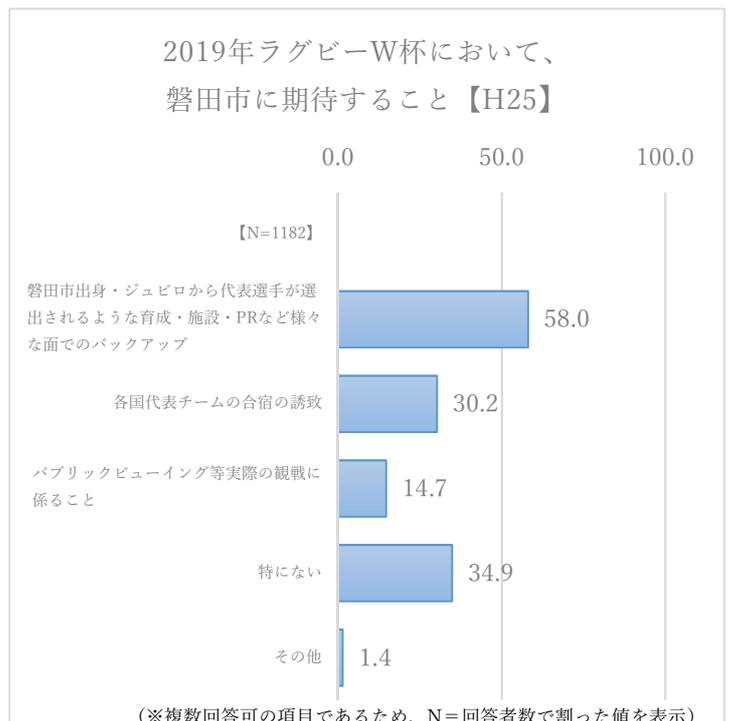
問25 2019年にラグビーW杯が日本で開催されましたが観戦されましたか。(該当するもの全て選択)



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)



参考：平成25年度調査(前回)

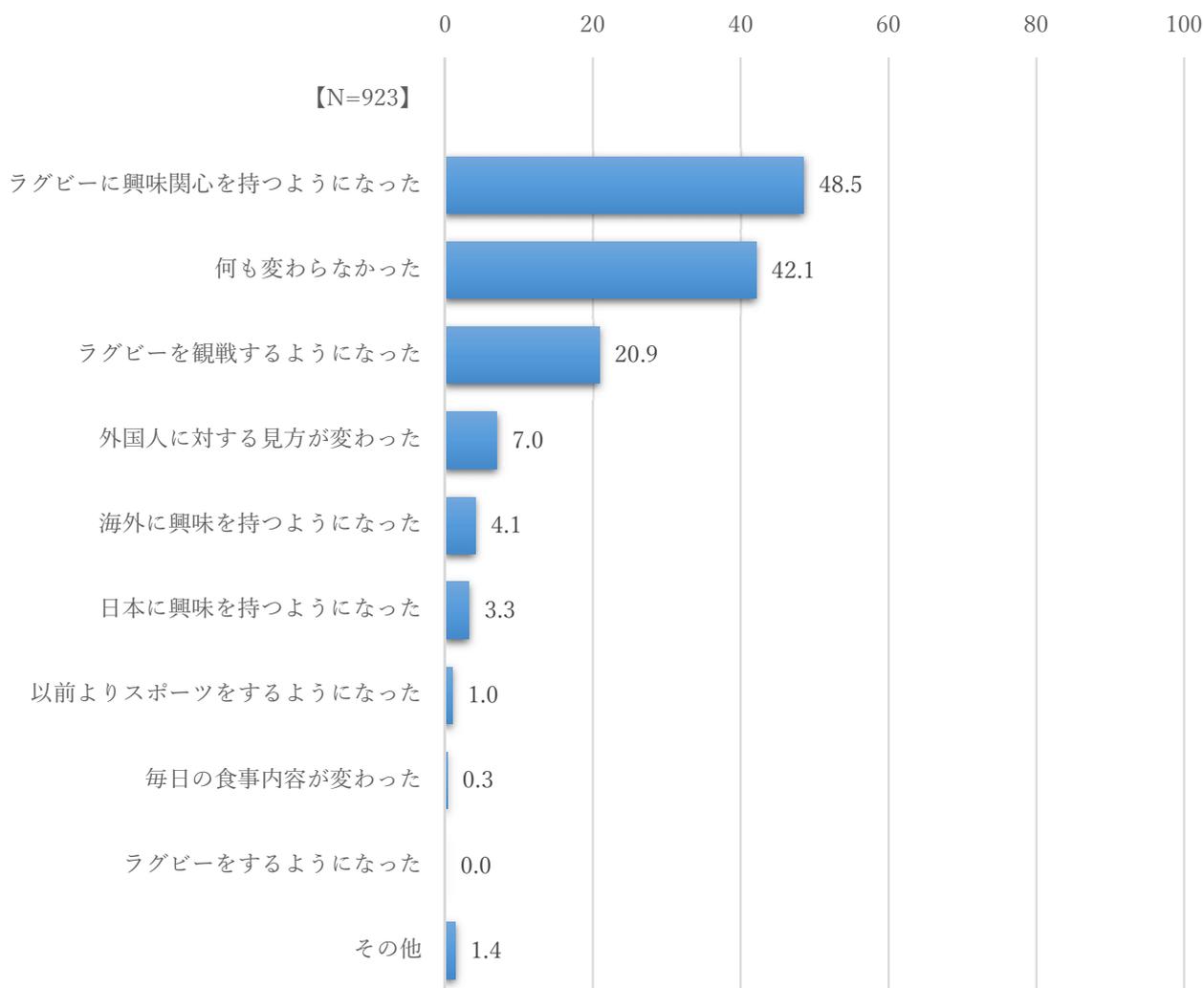


参考：平成25年度調査(前回)

ラグビーW杯の観戦について聞いたところ、「テレビで観戦した」が68.0%と最も多かった。「観戦しなかった」が31.0%であることから、観戦した人は全体の69.0%となっている。

前回調査は、質問内容が異なるため、参考程度にする。

問26 2019年にラグビーW杯を終えて感じたことや生活の変化がありましたか。(該当するもの全て選択)

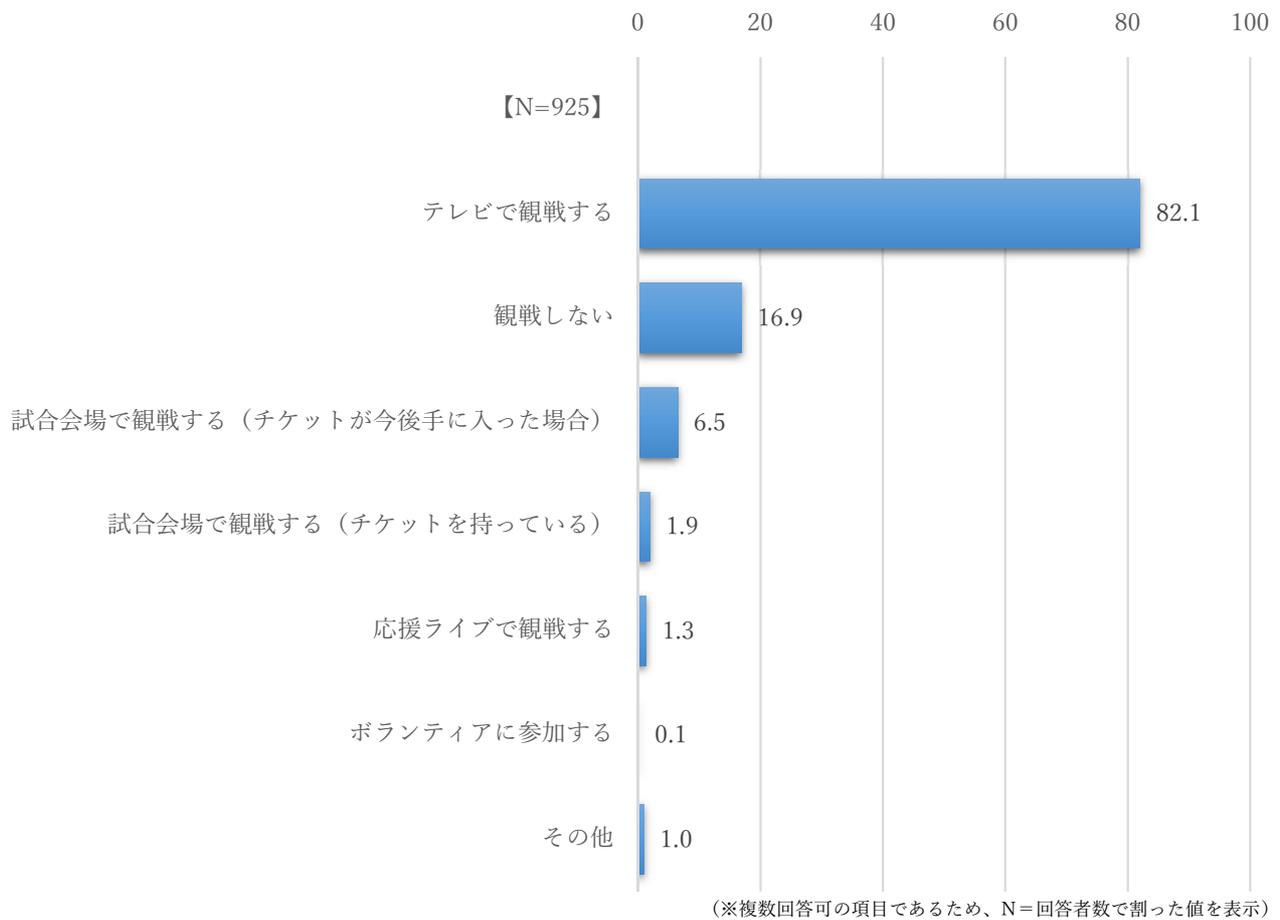


(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

ラグビーW杯を終えて、感じたことや生活の変化を聞いたところ、「ラグビーに興味関心を持つようになった」が48.5%と最も多く、次いで「何も変わらなかった」が42.1%、「ラグビーを観戦するようになった」が20.9%などとなった。

「何も変わらなかった」が42.1%であることから、全体の57.9%はラグビーW杯から何かを感じ取り、生活が変化している。

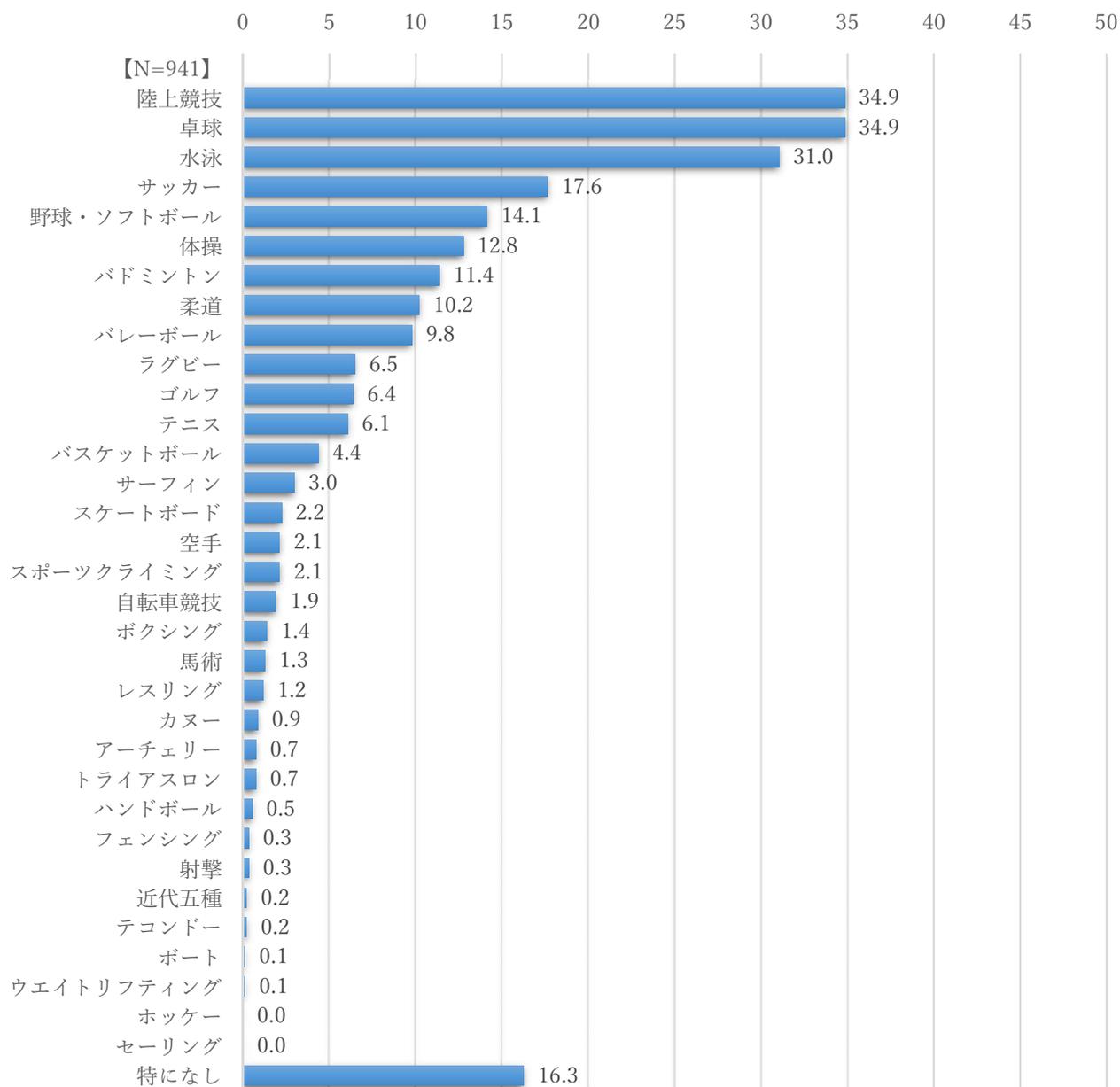
問27 東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、観戦などの計画はされていますか。(該当するもの全て選択)



東京オリンピック・パラリンピックの観戦計画は、「テレビで観戦する」が82.1%と最も多く、次いで「観戦しない」が16.9%などとなっている。

問28 東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、あなたは注目している競技はありますか。(該当する競技と理由を、オリンピック、パラリンピックからそれぞれ3つ以内で選択)

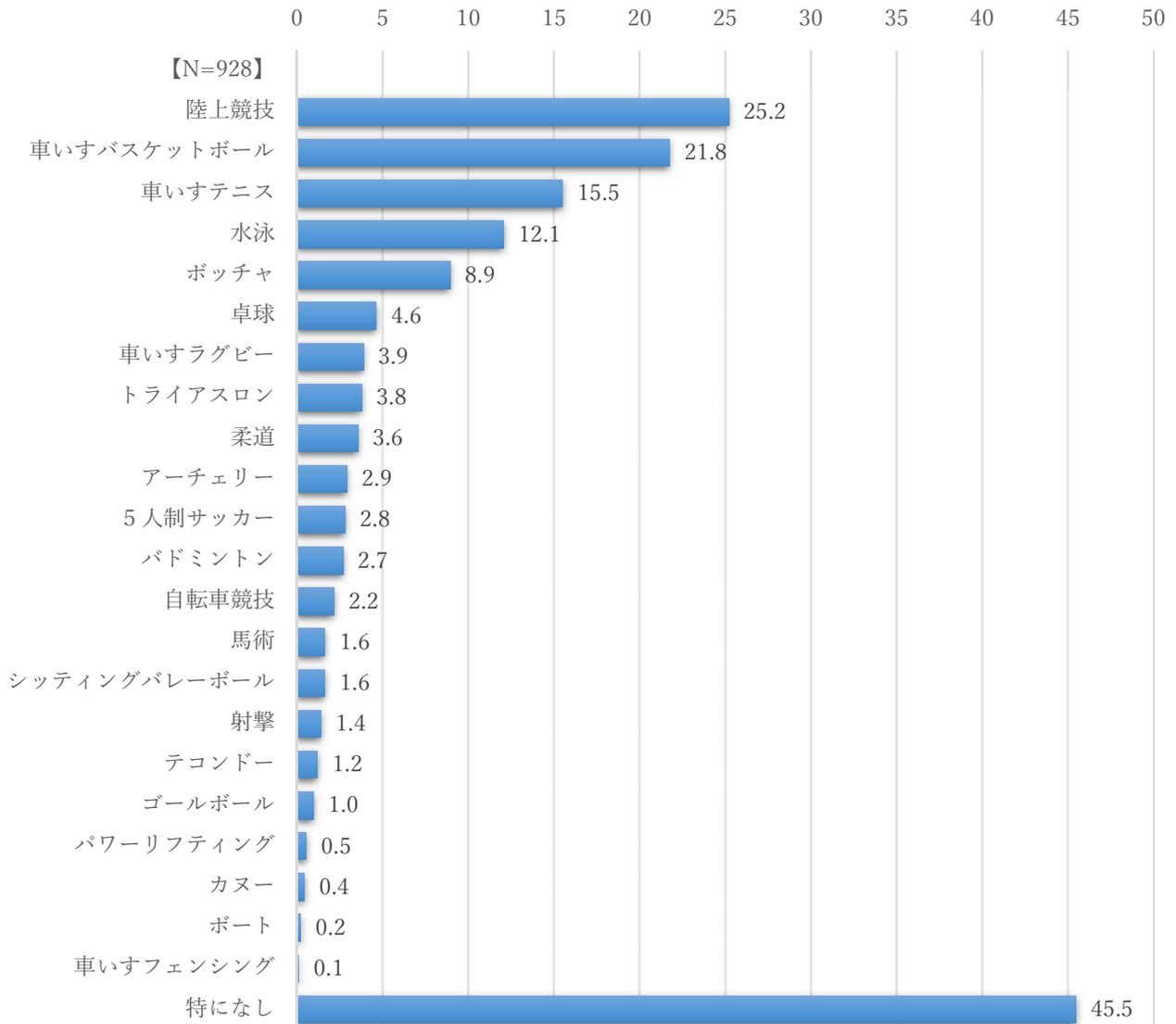
注目しているオリンピック競技



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

東京オリンピックで注目している競技は、「陸上競技」及び「卓球」が34.9%と最も多く、次いで「水泳」が31.0%、「サッカー」が17.6%などとなっている。

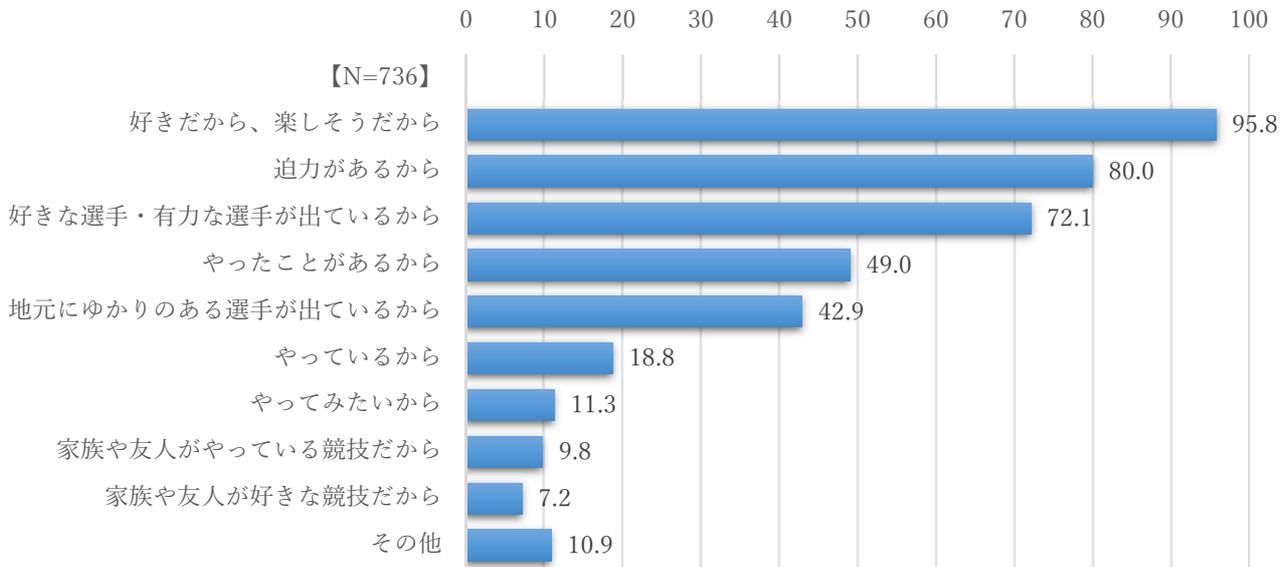
注目しているパラリンピック競技



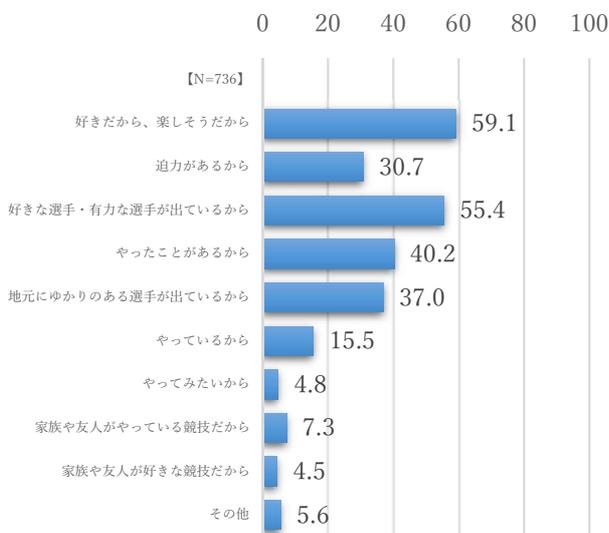
(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

東京パラリンピックで注目している競技は、「陸上競技」が25.2%と最も多く、次いで「車いすバスケットボール」が21.8%、車いすテニスが15.5%、水泳が12.1%などとなっている。

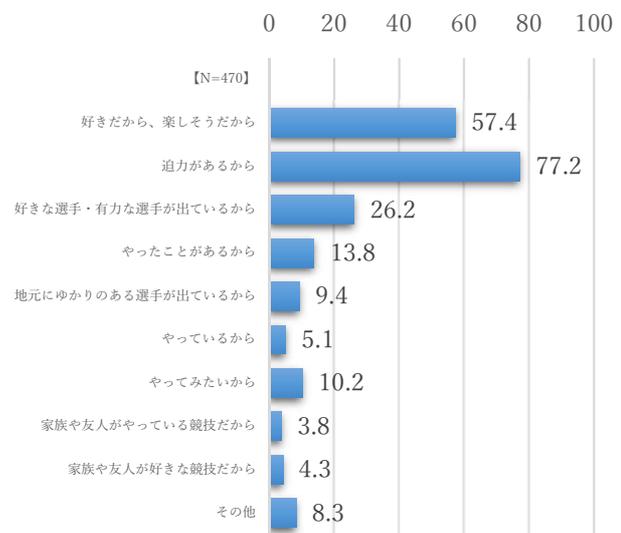
注目している理由【オリ・パラ共通】



注目している理由 【オリンピックのみ】



注目している理由 【パラリンピックのみ】



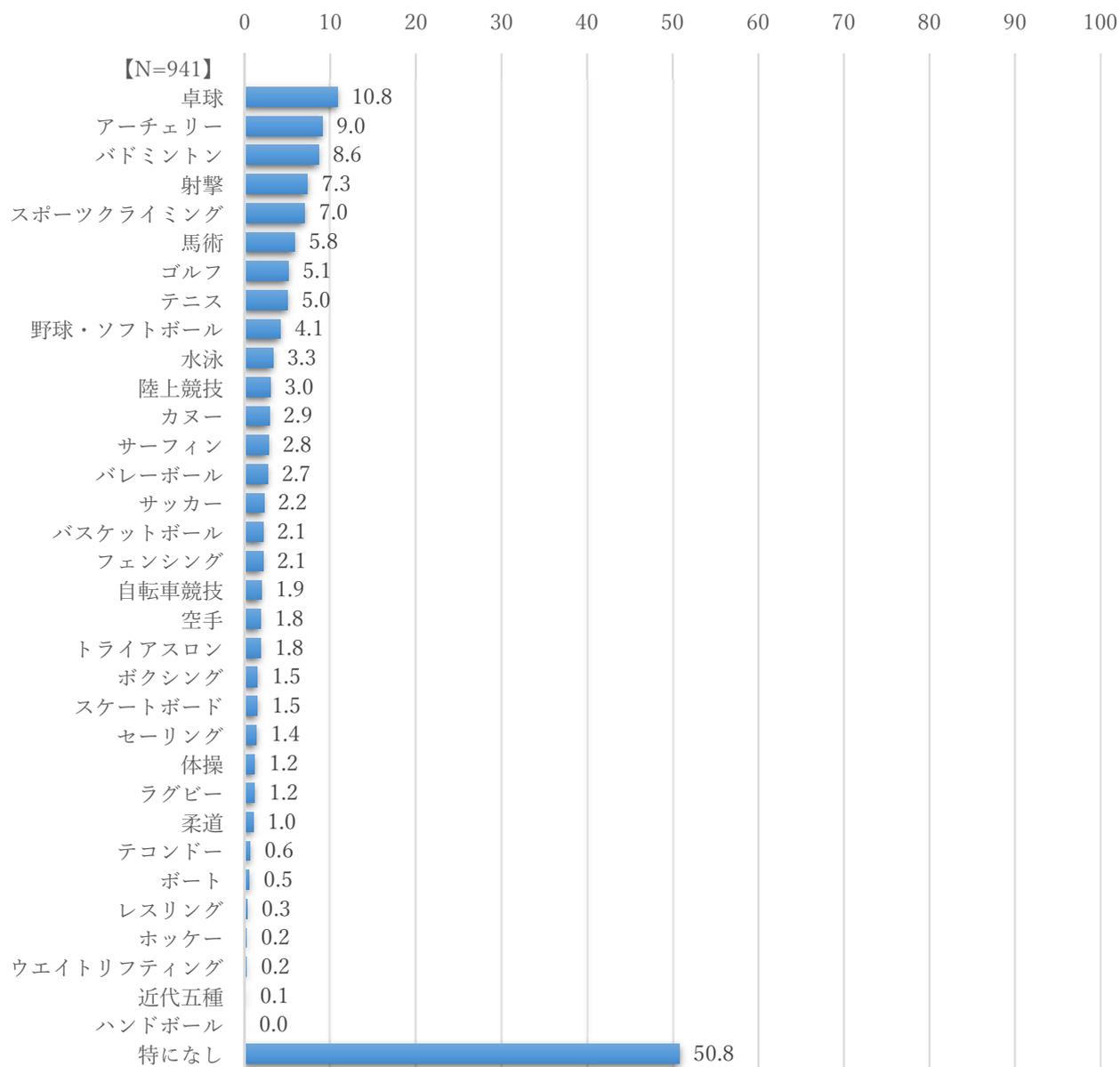
※選択した競技一つにつき、理由を一つずつ選択している。集計は、選択した理由全てを総計し、回答者数（N）を基数とした百分率で示している。

選択した競技を注目している理由は、「好きだから、楽しそうだから」が95.8%と最も多く、次いで「迫力があるから」が80.0%、「好きな選手・有力な選手が出ているから」が72.1%などとなっている。

「迫力があるから」では、オリンピックに比べパラリンピックの方が46.5ポイント高くなっている。

問29 東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、あなたが体験してみたい競技はありますか。(該当する競技と理由を、オリンピック、パラリンピックからそれぞれ3つ以内で選択)

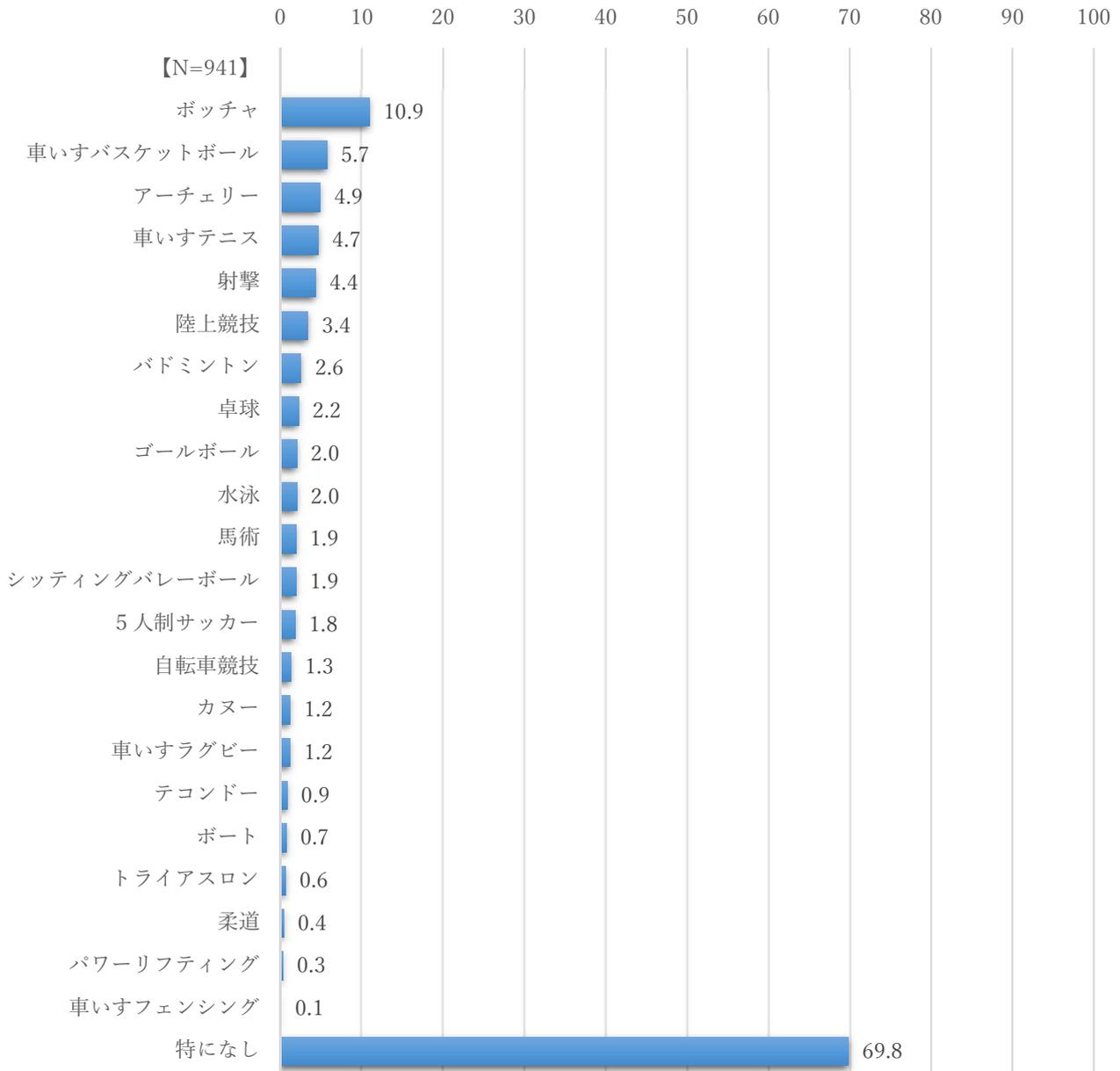
体験してみたいオリンピック競技



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

東京オリンピック競技で体験してみたい競技は、「卓球」が10.8%と最も多く、次いで「アーチェリー」が9.0%、「バドミントン」が8.6%、「射撃」が7.3%、「スポーツクライミング」が7.0%などとなっている。

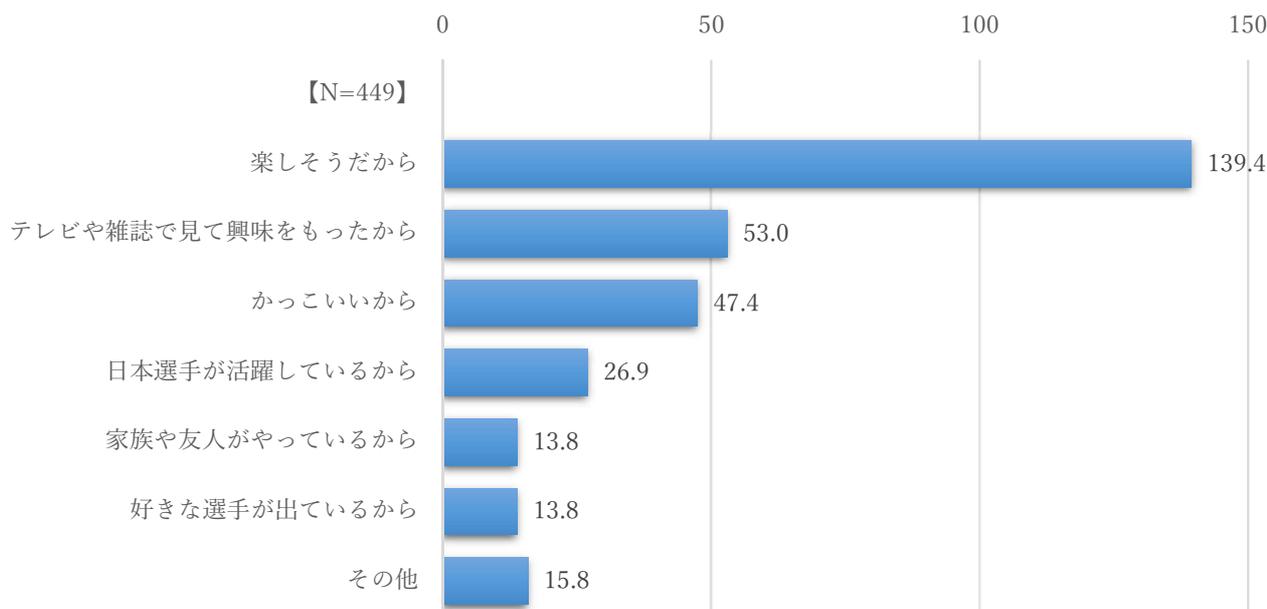
体験してみたいパラリンピック競技



(※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示)

東京パラリンピック競技で体験してみたい競技は、「ボッチャ」が10.9%と最も多く、次いで「車いすバスケットボール」が5.7%、「アーチェリー」が4.9%、「車いすテニス」が4.7%などとなっている。

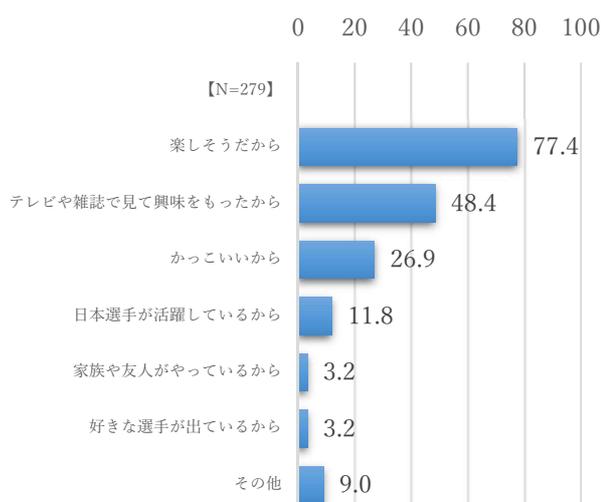
体験してみたい理由【オリ・パラ共通】



体験してみたい理由 【オリンピックのみ】



体験してみたい理由 【パラリンピックのみ】



※選択した競技一つにつき、理由を一つずつ選択している。集計は、選択した理由全てを総計し、回答者数（N）を基数とした百分率で示している。

選択した競技を体験してみたい理由は、「楽しそうだから」が139.4%と最も多く、次いで「テレビや雑誌で見て興味をもったから」が53.0%、「カッコいいから」が47.4%などとなっている。

オリンピックのみで見ると、「楽しそうだから」が91.3%と最も多く、次いで「カッコいいから」が30.7%となっているが、パラリンピックのみで見ると「楽しそうだから」が77.4%と最も多く、次いで「テレビや雑誌で見て興味をもったから」が48.4%となっている。「テレビや雑誌で見て興味をもったから」の項目では、オリンピックに比べパラリンピックの方が25.5ポイント高くなっている。

■ 磐田市の特徴あるスポーツ振興事業について ■

問30 磐田市は健康で魅力的な人づくりと、地域間交流が盛んな活気あるまちづくりを目指し、スポーツ交流都市宣言をしています。あなたが磐田市の特徴と感じるスポーツ振興事業は何ですか。（該当するもの3つ以内で選択）



参考：平成25年度調査（前回）

磐田市の特徴と感じるスポーツ振興事業では、「ジュビロ磐田とヤマハ発動機ジュビロのホームタウン活動」が57.8%と最も多く、次いで「ジュビロ磐田メモリアルマラソンの実施」が43.3%、「ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦事業」が33.2%となっている。

前回調査は、項目が大きく異なるため参考程度とする。

■ スポーツのまちづくり施策について ■

問31 市のスポーツのまちづくり施策について、充実していること・不足していることは何ですか。（該当するものそれぞれ全て選択）

充実していること



（※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示）

【H25】



（※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示）

参考：平成25年度調査(前回)

磐田市のスポーツのまちづくり施策について充実していることでは、「ジュビロ磐田のホームタウン活動」が65.5%と最も多く、次いで「ヤマハ発動機ジュビロのホームタウン活動」が47.1%、「幼児から中学生までの子どもへの運動・スポーツ機会の提供」が22.3%となっている。

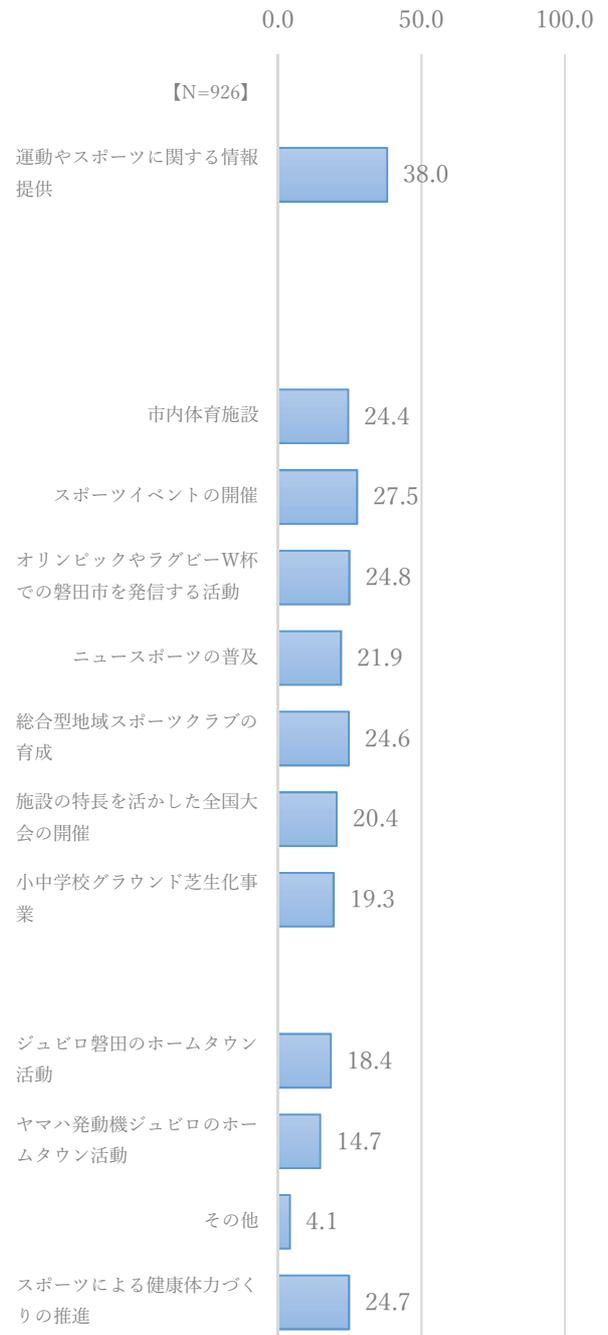
前回調査と比較すると、「ヤマハ発動機ジュビロのホームタウン活動」が15.6%高くなっている。

不足していること



（※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示）

【H25】



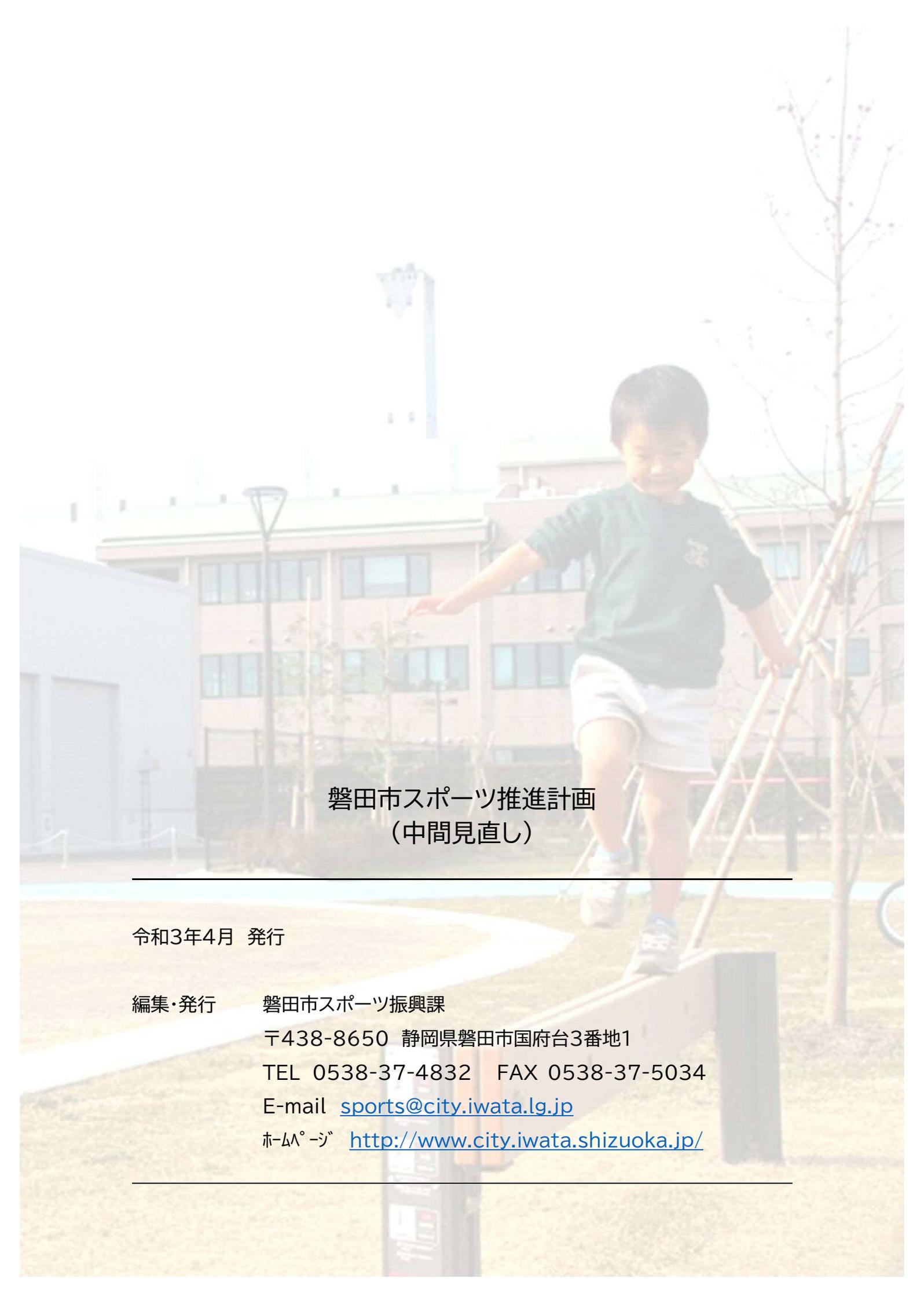
（※複数回答可の項目であるため、N=回答者数で割った値を表示）

参考：平成 25 年度調査（前回）

磐田市のスポーツのまちづくり施策について不足していることでは、「運動やスポーツに関する情報提供」が 38.4%と最も多く、次いで「ライフステージや性別（高齢者・女性等）に応じた各種教室やイベント」が 30.2%となっている。

前回と比較すると、「オリンピックやラグビーW杯で磐田市を発信する活動」が 6.6 ポイント、「ヤマハ発動機ジュビロのホームタウン活動」が 8.6 ポイント低くなっている。





磐田市スポーツ推進計画
(中間見直し)

令和3年4月 発行

編集・発行

磐田市スポーツ振興課

〒438-8650 静岡県磐田市国府台3番地1

TEL 0538-37-4832 FAX 0538-37-5034

E-mail sports@city.iwata.lg.jp

ホームページ <http://www.city.iwata.shizuoka.jp/>
